

令和4年度 山形市社会福祉事業団 事業報告書

I 事務局

(1) 理事会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり理事会を開催した。

- ① 第199回理事会（4月1日）……書面開催
（審議事項）
 - 常務理事の選定について
- ② 第200回理事会（5月11日）……山形市役所
（報告事項）
 - 給食調理業務の委託契約の締結について
（審議事項）
 - 令和3年度事業報告について
 - 令和3年度決算の承認について
 - 令和4年度補正予算について
 - 理事候補者について
 - 評議員会の招集について
- ③ 第201回理事会（5月25日）……山形市役所
 - 副理事長の選定について
 - 評議員選任・解任委員の選任について
 - 第三者委員の選任について
 - 令和4年度補正予算について
 - 評議員に書面による決議を求めることについて
- ④ 第202回理事会（10月26日）……山形商工会議所会館
（報告事項）
 - 事業団の業務執行状況について
 - 居宅介護支援事業所どうまちの財産の移管について
（審議事項）
 - 令和4年度補正予算について
 - 職員の給与等に関する規程の一部改正について
 - 契約職員就業規則の一部改正について
 - 経理規程の一部改正について
 - 評議員候補者の推薦について
 - 評議員会の招集について
- ⑤ 第203回理事会（2月1日）……書面開催
（審議事項）
 - 令和4年度補正予算について

- ・評議員に書面による同意を求めることについて

⑥ 第204回理事会（3月15日）……山形市役所
（審議事項）

- ・令和4年度補正予算について
- ・令和5年度事業計画について
- ・令和5年度資金収支予算について
- ・定款施行細則の一部改正について
- ・職員の給与等に関する規程の一部改正について
- ・個人情報保護規程の制定について
- ・指定放課後等デイサービス風の子運営規程の一部改正について
- ・指定共同生活援助事業所蔵王運営規程の一部改正について
- ・給食調理業務の委託に係る契約方法及び指名業者の選定について
- ・評議員会の招集について
- ・事務局次長、施設長及び主幹の任免について

(2) 役員の異動

① 役員の就任

ア 常務理事の就任

令和4年4月1日付けで土田郁子理事が同日開催の理事会（書面開催）で常務理事に選定された。

イ 理事及び副理事長の就任

令和4年5月25日付けで浅野優歩山形市福祉推進部長が理事に就任し、同日開催の理事会で副理事長に選定された。

② 役員の退任

令和5年3月31日付けで浅野優歩理事が副理事長及び理事を辞任した。

(3) 評議員会の開催

事業団定款に基づき、下記のとおり評議員会を開催した。

① 第89回評議員会（5月25日）……山形市役所
（報告事項）

- ・令和3年度事業報告について
- （審議事項）
- ・令和3年度決算の承認について
 - ・令和4年度補正予算について
 - ・理事の選任について

② 第90回評議員会（5月30日）……書面開催
（審議事項）

- ・令和4年度補正予算について

- ③ 第91回評議員会（11月2日）……山形商工会議所会館
（審議事項）
- 令和4年度補正予算について
- ④ 第92回評議員会（2月7日）……書面開催
（審議事項）
- 令和4年度補正予算について
- ⑤ 第93回評議員会（3月27日）……山形市役所
（審議事項）
- 令和4年度補正予算について
 - 令和5年度事業計画について
 - 令和5年度資金収支予算について
- (4) 評議員の異動**
- ① 評議員の退任
- 佐藤 久枝 令和4年6月23日付け 辞任
 - 鈴木 晴夫 令和4年6月23日付け 辞任
- ② 評議員の就任
- 田村 則子 令和4年10月26日付け 就任
 - 藤澤 睦夫 令和4年10月26日付け 就任
- (5) 評議員選任・解任委員会の開催**
- ① 第6回評議員選任・解任委員会（10月26日）……山形商工会議所会館
（審議事項）
- 評議員の選任について
- (6) 評議員選任・解任委員の異動**
- ① 評議員選任・解任委員の就任
- 佐藤 浩治 令和4年5月25日付け 就任
- (7) 運営協議会の開催**
- 事業団定款に基づき、下記のとおり運営協議会を開催した。
- ① 第11回運営協議会（7月14日）……山形商工会議所会館
- 令和3年度事業報告及び決算について
- ② 第12回運営協議会（2月24日）……山形市役所
- 令和5年度事業計画（案）について
- (8) 運営協議会委員の異動**
- ① 運営協議会委員の退任
- 古原 靖子 令和5年3月31日付け 辞任
 - 川田 徹 令和5年3月31日付け 辞任

(9) 職員の状況について

① 職員数

区分	令和4年4月1日 現在	年度中の増減			令和5年3月31日 現在
		採用者	退職者	増減	
正規職員	137名	4名	5名	△1名	136名
契約職員	58名	9名	5名	4名	62名
パート職員	70名	8名	8名	0名	70名
計	265名	21名	18名	3名	268名

派遣職員	14名	8名	8名	0名	14名
------	-----	----	----	----	-----

※正規職員には再任用職員5名を含む。常務理事を除く。

② 職員採用試験の実施状況

事業団の要員計画に基づき、前年度からの職員の欠員補充を図るとともに、新たに山形学園に自立支援担当職員等を配置するため、職員採用試験を実施した。全8回実施の予定であったが、応募者の状況により令和4年度は5回の実施となった。職員採用試験を実施した結果、下記のとおり9名の合格者を内定した。

職種名	募集人数	受験者数	合格者	採用者
保健師	1名	1名	1名	1名
看護師	1名	0名	0名	0名
指導員・保育士	4名程度	4名	3名	3名
介護員	11名程度	7名	5名	4名

※介護員の合格者5名のうち1名は、令和5年7月に採用予定

③ 職員の採用状況

ア 令和4年4月1日付け採用者8名（指導員・保育士5名、介護員3名）

イ 令和4年10月1日付け採用者1名（介護員1名）

ウ 令和5年1月1日付け採用者2名（保健師1名、介護員1名）

エ 令和5年2月1日付け採用者1名（介護員1名）

④ 再任用職員の任用

再任用職員制度に基づき、令和4年3月31日付け定年退職者2名を再任用するとともに、再任用職員3名の任期を更新し、経験のある人材の有効な活用を図った。

⑤ 障がい者の雇用状況

まんさくの丘、菅沢荘及びあたご荘において、障がい者5名を雇用した。

⑥ 職員健康診断・ストレスチェックの実施状況

ア 職員の健康診断を例年のとおり実施した。（実施者202名）

イ 職員のストレスチェックを例年のとおり実施した。（実施者200名）

(10) 経営基本方針及び第2期経営改善指針に基づく取り組み

令和4年3月に策定した事業団の経営基本方針及び第2期経営改善指針に基づき、下記のとおり安定した福祉サービスの提供と経営の健全化に向けた取り組みを実施した。

① 経営基本方針に基づく取り組み

ア 山形市の指定管理者として指定期間2年目を迎え、引き続き市有施設の適正な管理運営と利用者への適切な福祉サービスの提供に努めた。

イ 山形市の認定を受け「地域生活支援拠点」として、グループホームこもれびでは、積極的に障がい者の緊急的な受入や必要な支援を行い、福祉セーフティネットの機能を果たした。

ウ 新型コロナウイルスの流行に伴い、感染防止対策の取り組みを強化したが、残念ながらクラスターの発生など利用者・職員に感染が拡大した。この経験を踏まえ、感染症や災害が発生しても継続して必要なサービスを提供できるよう業務継続計画（BCP）の策定につなげる。

エ 事業団ホームページを活用し、法人・施設の紹介、職員採用情報の掲載を行うとともに、経営状況等の情報を適切に公表し、運営の透明性の確保を図った。

② 第2期経営改善指針に基づく取り組み

ア 収入の確保

前指針から継続して稼働率又は年間利用者数等の目標値を設定し、新規利用者の増加に努め収入の確保を図ったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で事業所の営業停止や自主休業等により利用者数が減少し、収入の確保が難しい状況であった。

菅沢荘では、介護報酬の改定により新たに創設された自立支援促進加算、科学的介護推進体制加算、ADL維持等加算等を年間を通して算定するとともに、相談支援事業では、令和5年3月から主任相談支援専門員の資格取得による配置加算の算定を開始するなど、新規加算の取得により収入の増加を図った。

イ デイサービスセンターの在り方の検討

菅沢・銅町デイサービスセンターの今後の在り方について、令和4年5月から所管する山形市長寿支援課と協議を行った。現状や課題の共有、提案等を行ったが、明確な方針の決定に至っておらず、早期に今後の方向性が示されるよう引き続き協議を行っていく。

ウ 適正な人員配置と組織体制の強化

令和4年4月から2つの事業所を統合して「居宅介護支援事業所たきやま」とし、職員2名体制による支援体制の強化を図った。また、新たに定年退職者2名を再任用し、後進の育成など人材の有効な活用を図った。

(11) その他

① 事業団施設における新型コロナウイルスの感染状況

令和3年度までは利用者・職員ともに新型コロナウイルスの感染者数は0名であったが、令和4年4月に職員に、5月に利用者に初めて感染が確認された。

事業団施設では感染防止対策を徹底してきたが、県内の感染者の急増に伴い、4施設で5件のクラスターが発生するなど感染の拡大が見られ、令和4年度においては利用者125名、職員95名、合計で220名に感染が確認された。なお、感染による死者はいなかった。

また、クラスターが発生した高齢者の入所施設では、陽性となった入所者のほとんどが施設内療養となり、山形市保健所の指導を受けながら支援を継続した。

② 国の補助金及びベースアップ支援加算等による賃金改善の実施について

国の「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」に基づき、国の補助金等をもとに、令和4年3月に一時金を支給し、4月からは新たに特別処遇改善手当（月額4,000円～9,000円程度）を新設し、職員の賃金改善を実施した。令和4年10月からは国の補助金に代わって新たに創設された「ベースアップ等支援加算」により、引き続き職員の賃金改善を実施した。

③ 光熱費等の物価高騰に係る支援給付金等の交付について

社会的な光熱費、燃料費、食材料費等の物価高騰の影響により、事業運営に係る経費が増大していることに伴い、障がい福祉サービス及び介護保険サービス等の対象事業所において、山形市の光熱費等支援給付金、並びに山形県の物価高騰対策支援金の交付を受け、施設経営における経費の負担軽減を図った。

ア 山形市光熱費等支援給付金（障がい福祉サービス事業所：2,203,500円、介護保険サービス事業所：5,607,300円）

イ 山形県物価高騰対策支援金（障がい福祉サービス事業所：1,400,000円、介護保険サービス事業所：300,000円、児童養護施設：400,000円）※山形学園を除く市有施設は対象外

④ 情報公開・個人情報保護制度の運用状況

- 情報公開請求 0件
- 個人情報開示請求 1件（決定内容開示 1件）

⑤ 苦情解決制度について

ア 苦情解決第三者委員会の開催（7月4日）……山形学園

- グループホームこもれびの見学
 - 令和4年度苦情解決体制の確認、令和3年度の苦情発生状況及び利用満足度調査の報告
- ※第三者委員による担当施設の訪問（上半期の苦情発生状況の報告）については、新型コロナウイルスの感染拡大のため開催を見送った。

イ 第三者委員の異動

任期満了による改選に伴い、下記の者3名が重任された。

- 無着 道子 令和4年6月1日付け 重任
- 三森 聡 令和4年6月1日付け 重任
- 蜂谷 博 令和4年6月1日付け 重任

II 土地・建物の状況

指定管理者として管理運営する施設の土地・建物の状況は、下記のとおりである。

名 称	所 在	土 地	建 物
まんさくの丘	蔵王半郷	19,174.52㎡	2,757.24㎡
児童養護施設山形学園	蔵王上野	21,687.39㎡	1,702.69㎡
高齢者総合福祉施設すげさわ	すげさわの丘	30,138.08㎡	5,123.49㎡
養護老人ホームあたご荘	大字岩波	12,779.48㎡	4,177.95㎡
銅町デイサービスセンター	銅町二丁目	1,713.03㎡	813.63㎡

Ⅲ まんさくの丘

こまくさ学園、恵光園及び蔵王通勤寮の3施設を中心に、それぞれの事業の特性を活かしながら、総合福祉施設として社会的な役割を果せるよう、常に連携を図りながら事業の運営を行った。

(1) 施設全体としての取り組み

① 各施設との連携の推進

ア まんさくの丘調整会議を毎月2回開催し、それぞれの施設や事業との連携と調整を図り、効果的かつ効率的な運営に努めた。

イ 職員による各種委員会を組織し、それぞれの活動を通して、利用者への福祉サービスの向上と施設運営の改善と活性化を図った。(研修委員会、給食委員会、地域福祉委員会、防災委員会、環境整備委員会、倫理委員会、衛生委員会 等)

② 安全管理に関する取り組み

ア 火災や自然災害に備えて、総合防災訓練を年2回、避難訓練を毎月実施した。

イ 施設内外の事故防止を図るため、安全点検を行い必要に応じて対策を講じた。

ウ 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症を予防するため、施設全体で連携しながら徹底した取り組みを行った。

エ 衛生委員会を毎月開催し、職場の安全衛生の推進を図った。

③ 地域社会との交流

「地域福祉懇談会」は、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底した上で2年ぶりに開催できたが、「まんさくの丘まつり」や「蔵王地区まつり」は中止となり、地域社会との交流は大きく制限された。なお、利用者の作品を販売する「まんさくマーケット」は保護者向けに3日間開催した。

④ 虐待防止及び身体拘束の適正化の推進

ア まんさくの丘虐待防止委員会運用指針を策定し、責任者の設置、委員会の開催、委員会の実施に関する事項、委員会の責務等を定めた。

イ 虐待防止に関する全職員に対する研修、虐待防止委員会委員に対する研修、身体拘束に関する新規採用職員研修を実施し、職員全体の倫理意識を高めた。

1 児童発達支援センター こまくさ学園

幼児期に必要な基本的なソーシャルスキルを一人ひとりが可能な限り獲得できるよう支援するとともに、家庭と連携しながら新型コロナウイルス等の対策を徹底し、感染症の予防に努めた。学園の行事や主催の研修は、内容の変更、参加者数の縮小など対策を講じた上で可能な限り実施した。

利用状況については、4月に7人が入園し、定員の30人でのスタートとなり、延利用児数は前年度比269人増の6,334人であった。利用児又は家族の新型コロナウイルスの感染による自宅療養や待機期間のため欠席が多かったことや、感染者が発生したクラスでは感染拡大防止のためお休みのご協力を頂いたこと等が影響し、利用率は前年度比4.1%減の78.2%であった。

また、地域療育の拠点としてその役割を果たすため、相談支援の充実を図りながら、保育所や山形市保健所等への支援を実施し、地域療育の向上に努めた。

① 利用状況

事業所名	こまくさ学園												利用定員	30名	
事業種別	福祉型児童発達支援センター												目標値	平均利用率84%	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
開園日数	23	21	24	23	24	22	23	22	22	21	21	24	270日	-	
利用登録児数(人)	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360人	30.0人	
延利用児数(人)	541	533	594	567	496	529	469	528	477	546	511	543	6,334人	527.8人	
1日平均利用(人)	23.5	25.4	24.8	24.7	20.7	24.0	20.4	24.0	21.7	26.0	24.3	22.6	-	23.5人	
利用率(%)	78.4	84.6	82.5	82.2	68.9	80.2	68.0	80.0	72.3	86.7	81.1	75.4	-	78.2%	
前年度の利用登録児数	25	24	24	25	27	27	29	29	29	30	30	30	329人	27.4人	
前年度の延利用児数	438	419	524	465	410	494	585	560	558	536	503	573	6,065人	505.4人	
前年度の利用率	76.2	83.1	91.0	80.9	66.0	83.2	84.1	87.8	87.5	85.1	83.8	79.6	-	82.3%	

② 年齢構成 (令和5年3月31日現在)

在籍者	0～2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均年齢
30人	0人	3人	7人	13人	7人	5.6歳

③ 障がい程度状況 (令和5年3月31日現在)

在籍者	最重度	重度	中度	軽度
30人	0人	5人	16人	9人

④ 通園バスの運行状況 (令和5年3月31日現在)

区分	定員	利用者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年間	1日平均
2号車	21人補8人	13人	6ヶ所	14,301km	61.0km

⑤ 療育内容

ア 療育全般

遊びや運動を通して、信頼関係を築き、子どもの心の動きを理解するよう努め、気持ちを尊重しながら、社会性や言語の獲得、基礎体力づくり、基本的な対人関係の確立など幼児期の発達に必要な療育を行った。

イ 生活習慣の自立

衣服の着脱・食事・排泄など生活習慣の自立に向けた療育を行った。

⑥ 健康衛生管理

毎月身体測定(身長・体重)を実施するとともに、専門医による各科健診(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を年2回実施し、児童の健康管理に努めた。また、歯科衛生士による歯磨き指導やフッ素塗布を実施した。

毎日の感染予防対策として、検温、うがい、手洗い、手指消毒、マスクの着用、換気、室内の消毒、加湿器や空間除菌脱臭機の設置等を行った。

⑦ 交流保育

近隣の幼稚園との交流保育は、新型コロナウイルスの感染防止のため中止とした。

⑧ クラス別活動

毎月の活動計画に基づき、クラス毎に小集団での課題活動を行った。

⑨ 行 事

季節に応じた催しにより自然や季節を感じ、様々な社会体験により適応力や協調性を養うため、次の行事を実施した。

月	行 事 内 容
4月	入園式、お花見
5月	乗馬体験、ドッグセラピー
6月	プール開き、社会見学（園外活動）
7月	合宿、七夕、バスハイク
8月	夏まつり
9月	遠足、まんさくの丘まつり※
10月	乗馬体験、ドッグセラピー、まんさくマーケット、親子レクリエーション※
11月	交通安全教室
12月	クリスマス会
1月	だんご木刺し
2月	節分あそび
3月	おひなまつり、卒園式

※新型コロナウイルスの感染防止のため、まんさくの丘まつり、親子レクリエーションを中止した。

⑩ 給 食

給食委員会を毎月実施し、献立内容と食事摂取状況などを把握するとともに、年間計画に基づき季節感や変化のある給食の実施に努めた。

⑪ 保護者支援

保護者と関わる中で悩みや問題を少しでも解決できるよう、日々の療育相談、連絡帳の活用のほか、以下の支援を行った。

- 家庭訪問（7件）
- 個人面談（各保護者年3回）
- 研修会（年7回）
- 自由参観（年2回）
- 療育参観（各クラス年2回）
- 療育説明会（年1回）
- 保護者茶話会（5回） ※コロナ禍のため、保護者懇親会を中止した。

⑫ 就 学

保護者の意向や子どもの発達段階に応じて、教育委員会、小学校、特別支援学校などの関係機関と密接に連絡を取りながら就学に向けた指導・支援を行った。

区分	名 称	人数	名 称	人数
就学	山形県立村山特別支援学校	3人	山形市立滝山小学校	1人
	山形市立第一小学校	1人	山形市立南沼原小学校	1人
	山形市立第三小学校	1人	山形市立蔵王第二小学校	1人
	山形市立金井小学校	1人	上山市立上山小学校	1人
			合 計	10人

⑬ 卒園児支援

学校からの要請を受け、学校に出向き情報交換を行った。

⑭ 災害防止

非常災害に備え、避難訓練10回、総合防災訓練2回、職員の救命救急訓練を実施した。
また、園内活動や園外行事等は、無理のない内容・日程に配慮し計画を立て実施した。

⑮ 苦情解決

- 相談、要望などはあったが、苦情として受け付けたものはなかった。
- 保護者にアンケート調査を実施し、利用満足度において「非常に良い」「良い」が全体の98.1%という結果であった。また、国のガイドラインに従い、引き続き保護者の「児童発達支援評価表」と事業所の「自己評価結果」をホームページに掲載した。

⑯ 職員研修

ア 職場内研修

- 日時 令和4年4月1日（金）
内容 「こまくさ学園の地域支援について」（内部研修）
講師 主査 石澤 こそえ
- 日時 令和4年4月2日（土）
内容 「こまくさ学園の療育内容について」（内部研修）
講師 園長 高橋 有紀
- 日時 令和4年6月22日（水）（乳幼児救急法講習）、7月6日（水）（成人救急法講習）
内容 「救命救急の講習」
講師 日本赤十字社山形県支部 指導員
- 日時 令和5年3月14日（火）
内容 「障がいのある人の権利擁護・虐待防止について」（虐待防止委員会研修）
講師 ピアカウンセラー 平間 みゆき 氏
- その他 4件

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

- 山形県強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） 9月15日～16日、29日～30日 2名
- 全国知的障害関係施設長等会議・研修 ※ 8月1日 1名
- 山形県強度行動障害支援者養成研修（実践研修） 11月29日～30日 2名
- 山形県作業療法士会 発達領域研修会 ※ 11月20日 3名
- 全国児童発達支援協議会北海道ブロック研修会 ※ 2月11日 2名
- やまがた発達障がい支援フォーラム ※ 2月12日 1名
- その他 4件 6名

⑰ 実習生等の受け入れ

- 保育実習 7名
- 在宅看護論実習 12名
- 地域で暮らす人を理解する実習 I 4名
- 介護等体験実習 2名
- 発達障がい作業療法実習 17名
- 心理実習 26名

⑱ 研修事業

毎年、保育所・幼稚園・放課後児童クラブ・療育機関・行政機関等の関係者らを対象に公開講座を開催していたが、コロナ禍のため規模を縮小し、所属職員向けの講座として開催した。

第1回 令和4年12月26日(月) 15:15~17:00 テーマ:「関わり方の基本」 講師:公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者:10名
第2回 令和5年1月25日(水) 15:15~17:00 テーマ:「感情コントロールへの支援」 講師:公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者:12名
第3回 令和5年3月29日(水) 15:15~17:00 テーマ:支援力向上研修「子どもの行動と心情を理解する」 講師:こまくさ学園 業務調整主査 伊藤 亮 受講者:8名

⑲ 相談支援

ア 巡回相談(山形市保健所)

- 幼児発達相談 年11回

イ 外来相談

臨床心理士による行動観察、助言、相談を行った。

- 年27回 延べ43件

ウ 相談室

- 年11回 延べ21件

2 児童発達支援事業 ひよこ教室

発達に心配のある幼児を持つ保護者のニーズに応えるため、親子での通園による小集団療育のほか、単独での療育コースを定期的実施し、発達段階に応じたきめ細やかな療育を行った。また、公認心理師による相談時間を増やし、家族支援、母親支援の充実を図った。

県内での新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、保育所等と並行利用しているお子さんについては、所属する保育所等での感染リスクのため自宅待機で欠席になることも多かったが、延利用児数は1,147人で目標値の1,100人を上回った。感染対策を丁寧に行い、発熱や風邪症状が見られたお子さんについては、十分に回復した上で利用を再開するようご家庭と連携した。

① 利用状況

事業所名	ひよこ教室												利用定員	10名/日	
事業種別	児童発達支援												目標値	年間利用者数1,100人	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
開園日数	14	20	23	22	21	21	21	22	21	17	21	17	240日	-	
延利用児数(人)	52	73	86	104	107	107	96	95	92	95	128	112	1,147人	95.6人	
1日平均利用(人)	3.7	3.7	3.7	4.7	5.1	5.1	4.6	4.3	4.4	5.6	6.1	6.6	-	4.8人	
前年度の延利用児数	54	84	101	97	96	103	142	139	112	102	113	116	1,259人	104.9人	
前年度の1日平均利用	3.9	4.2	4.4	4.6	5.1	4.9	6.2	6.3	5.6	6.0	5.7	6.4	-	5.3人	

② 療育内容

- ・親子遊び、個別療育及び小集団療育を通じて、乳幼児の発達段階に必要な設定遊びや行事を実施した。
- ・〈設定療育〉ひよこ体操、ハイハイ運動、はしごくぐり、散歩、ひも通し、シール貼り、紙遊び、洗濯ばさみ遊び等
- ・公認心理師・臨床心理士による外来相談、ひよこカフェを実施した。
- ・保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。

3 放課後等デイサービス 風の子

小学生を対象に放課後や夏休み等の長期休暇中に療育や余暇の機会を提供し、心身両面のバランスのとれた発達を援助した。利用にあたっては、引き続き家庭や学校等と連携しながら新型コロナウイルス等の感染対策を徹底し、感染防止に努めた。

利用状況については、利用児又は家族の新型コロナウイルスの感染による自宅療養、自宅待機等の欠席が多かったことや感染者が発生した際に感染拡大防止のため自主休業日を設けたこと等が影響し、延利用児数は1,982人で目標値の2,200人を下回った。

① 利用状況

事業所名	風の子												利用定員	10名/日	
事業種別	放課後等デイサービス												目標値	年間利用者数2,200名	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
開園日数	19	19	22	19	20	20	20	20	19	19	19	18	234日	-	
延利用児数(人)	161	176	216	151	169	189	160	123	158	168	159	152	1,982人	165.2人	
1日平均利用(人)	8.5	9.3	9.8	7.9	8.5	9.5	8.0	6.2	8.3	8.8	8.4	8.4	-	8.5人	
前年度の延利用児数	192	164	248	218	188	221	220	214	200	187	182	199	2,433人	202.8人	
前年度の1日平均利用	9.6	9.1	11.3	10.9	10.4	11.1	10.5	10.7	10.5	10.4	10.1	10.0	-	10.4人	

② 療育内容

- ・放課後や長期休暇中の療育の場として、幼児期に積み残した社会性、コミュニケーション及び自主性の成長を支援した。
- ・〈設定療育〉全身運動(サーキット・バランスボール等)、日常生活訓練、指先運動、クッキング、散歩、宿題等
- ・保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。
- ・随時学校や関係療育機関との連携を図った。

4 保育所等発達相談事業（山形市委託事業）

市内保育所等52カ所（民間立保育所31カ所、認定こども園21カ所）の保育士を対象に80回の巡回相談を実施し、発達に心配がある児童の支援方法の指導・助言を行い、保育所における発達支援技術の向上及び支援体制の充実に努めた。

新型コロナウイルスの感染状況をみて、日程の再調整をする等、安全に配慮して巡回相談等を実施した。

① 相談事業

事業所名		保育所等発達相談事業												利用定員	-名	
事業種別		山形市委託事業												目標値	延巡回回数80回	
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
巡回相談	延巡回回数	0	1	9	7	13	10	6	7	8	10	9	0	80回	6.7回	
	延対応件数	0	4	33	26	48	26	22	29	36	36	23	0	283件	23.6件	
	前年度件数	0	3	47	42	21	33	31	22	36	4	3	30	272件	22.7件	
相談後のフォロー件数	相談室	2	0	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	21件	1.8件	
	外来相談	0	0	0	2	4	7	6	4	4	7	2	7	43件	3.6件	
	計	2	0	2	4	5	9	8	6	6	9	4	9	64件	5.3件	
	前年度件数	1	2	4	6	7	9	9	9	5	4	7	6	69件	5.8件	

② 研修事業

ア 発達支援基礎養成研修会（年3回）

下記の研修会をオンライン研修で開催した。

<p>第1回 令和5年2月10日（金） 14：00～17：00 テーマ：「支援を必要とする子の基本的理解に向けて」 講師：公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者：19名（公立保育園、幼稚園、幼稚園型認定こども園）</p>
<p>第2回 令和5年2月15日（水） 14：00～17：00 テーマ：「支援を必要とする子の基本的理解に向けて」 講師：公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者：23名（幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園）</p>
<p>第3回 令和5年2月22日（水） 14：00～17：00 テーマ：「支援を必要とする子の基本的理解に向けて」 講師：公認心理師・臨床心理士 加藤 玲子 氏 受講者：24名（民間立認可保育園）</p>

イ 令和4年度事例検討会

区分	箇所数	延巡回回数	延対応件数
民間立保育所	2	2	5

ウ 保育所発達相談事業連絡会

各保育所の代表者を対象とする発達相談事業の説明会は、コロナ禍のため中止とした。

③ 発達支援（巡回相談）連絡会

関係各課（こども未来課、学校教育課）との連絡会を行った。

5 生活介護事業 恵光園

利用者の希望や個性を尊重し、日々の活動を通して安心して主体的に活動に取り組める環境づくりと支援サービスの充実に努めた。家庭等との連携により利用者の心身の安定を図りながら支援にあたった。

令和4年度は2名の新規利用者を迎えたが、平均利用率は76.0%で目標の81%を下回った。新型コロナウイルスの感染による欠席の増加、複数の長期入院者に加え、事業所の重複利用が増えたことが要因である。事業に関しては、新型コロナウイルスの感染予防に配慮しながら、飲食を伴う行事、遠方に外出する行事は中止又内容を変更して実施した。

① 利用状況

事業所名	恵光園											利用定員	40名	
事業種別	障害福祉サービス（生活介護）											目標値	平均利用率81%	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
開園日数	23	21	24	23	24	22	23	22	22	21	21	24	270日	-
利用登録者数（人）	44	44	44	44	44	44	43	43	43	43	43	42	521人	43.4人
延利用者数（人）	804	751	846	769	782	606	752	730	729	697	676	796	8,938人	744.8人
1日平均利用（人）	35.0	35.8	35.3	33.4	32.6	27.5	32.7	33.2	33.1	33.2	32.2	33.2	-	33.1人
利用率（%）	79.4	81.3	80.1	76.0	74.1	59.9	76.0	77.2	77.1	77.2	74.9	79.0	-	76.0%
前年度の延利用者数	764	711	825	775	715	747	798	752	715	695	676	834	9,007人	750.6人
前年度の利用率	73.8	76.9	78.1	76.6	70.7	77.2	75.6	79.5	75.6	77.0	78.6	80.8	-	76.7%

② 年齢別構成

（令和5年3月31日現在）

在籍者	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
42人	2人	9人	4人	12人	8人	6人	1人	44.3歳

③ 障がい支援区分

（令和5年3月31日現在）

在籍者	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
42人	0人	0人	3人	13人	13人	13人

④ 通園バス運行状況

（令和5年3月31日現在）

区分	定員	利用者	乗降地点	走行キロ数（1日平均は平均運行距離）	
				年間	1日平均
1号車	33人補9人	21人	12カ所	16,189km	60km
3号車	8人	8人	8カ所	15,882km	59km
4号車	6人	6人	4カ所	13,470km	50km

⑤ 日常活動

日々の生活で必要となる基本的な生活能力及び体力と基本的な生活習慣を養うため、個別支援計画等に基づき、継続的な活動、支援を行った。

⑥ 班別活動

利用者の希望や適性等を尊重し、通常は作業班と生活班の2つのグループに分かれてそれぞれ以下の活動に取り組んだ。

	項目	主 な 活 動 内 容	
作 業 班	作業活動	作業トレーニングとして菓子箱（紙箱）折りの作業を行った。	
	創作活動	陶芸	利用者の適性に合わせ、ひも作り、型作りなど様々な技法を用いて作品の制作に携われるように配慮した。釉薬の塗布、ガス窯で焼成し、個性的な作品作りを行った。完成した作品は施設内で展示販売を行ったが、コロナ禍のため展示販売の機会が減少した。
		手工芸	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者の能力に合わせて取り組める手工芸を取り入れて行った。 • ビーズ等で指輪、ブレスレット、ネックレス等を制作したが、展示販売の機会が少なかった。
		図画工作	季節や行事に合わせて描画や展示物の制作等を行い、自由に創作する楽しさ、達成感を味わった。
	生活学習 レクリエーション	クッキング	季節感のあるお菓子や飲み物等を作った。また、誕生日会で食べるお菓子を生活班と一緒に手づくりし、誕生日ごとに利用者をお祝いだした。
		月・季節行事	誕生日会や茶話会、季節の小行事等を実施して、変化のある生活作りに取り組んだ。
		園外活動	感染対策を講じた上で、作業班のみや生活班と混成の小グループで外出し、散策や社会体験を行った。
		園芸	園の畑にサツマイモ・かぼちゃ・落花生等を植え、獲れた野菜で収穫祭を行い、自分たちで育て、収穫する喜びを体験した。
		軽スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> • 散歩や踊り等楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。 • 地域のインディアカ愛好会との交流はコロナ禍で中断しているが、集会室でのレクリエーション活動でスポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。
	生 活 班	個別活動	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者一人ひとりの障がいの状態、嗜好や適性に合わせ、楽しく取り組める軽作業や指先を使うビーズ通しやパズル作り等の活動を行った。 • 施設周辺の散歩等により、体力作りや健康増進に努めた。
リハビリ体操		音楽、レクリエーション、運動等を組み合わせて、楽しみながら体を動かし、身体機能の活性化を図った。	
機能訓練		身体機能の維持・向上を図るため、個人ごとに必要な訓練を行った。	
創作活動		陶芸	利用者の適性に合わせ、型作り等の技法を用いて作品を作り、完成した作品は施設の祭りで販売し、販売を体験した。
		手工芸	<ul style="list-style-type: none"> • ビーズ手芸に取り組み、ネックレスやブレスレット等の作品を作った。 • パーラービーズでコースター等の作品を作り、施設の祭りで展示販売を行ったが、コロナ禍のため展示販売の機会が少なかった。
生活学習 レクリエーション		月・季節行事	<ul style="list-style-type: none"> • 誕生日会や茶話会、季節の小行事を実施し、季節感のある生活作りに取り組んだ。 • 園の畑にサツマイモ、かぼちゃ、落花生等を植え、植物の生育や収穫の喜びを体験するとともに、採れた野菜で収穫祭を行った。
		園外活動	感染予防をしながら、生活班のみや作業班と混成の小グループで外出し、散策や社会体験を行った。
		クッキング	誕生日会で食べるお菓子を作業と一緒に手づくりし、誕生日ごとに利用者をお祝いだした。また、季節に応じた菓子を生活班単独でも作った。
		軽スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> • 散歩や踊り等楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。 • 地域のインディアカ愛好会との交流はコロナ禍で中断しているが、集会室でのレクリエーション活動でスポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。
		レクリエーション	室内でできる簡単なボウリングやサッカー等のゲームを行い、楽しく体を動かした。

⑦ 全体活動

収穫祭や年末慰労会等の行事を園全体及び保護者を交えて行い、親睦と相互理解を深めた。

⑧ 園外活動

社会参加を目的として、小グループで施設外に出かけ、社会経験を積んだ。

⑨ 健康衛生管理

- 嘱託医との連携を図りながら、利用者の健康管理に努めるとともに、専門医による各科検診（内科、眼科、耳鼻科、歯科）を年2回実施した。
- 利用者全員を対象に施設内で山形市の総合健診（特定健診・がん検診等）と同様の集団健診を実施した。
- 看護職員及び担当職員を中心に丁寧な健康観察を行い、指浴等による清潔の保持、体調不良や健康状態の把握、疾病や怪我の予防に努めた。また、必要に応じて医療機関への受診に同行し、既往症の把握、医療機関、家庭との連携に努めた。
- 毎月1回体重、血圧測定を行い、利用者の健康状態の管理に努めた。

⑩ 給食の状況

- 利用者に好まれる内容と栄養のバランスの両立に努め、季節感のある献立や利用者が選択できる希望献立等により、豊かな食事の提供に努めた。また、変化する利用者の咀嚼、嚥下の状態に合わせた形態（普通食、粗みじん、刻み、ペースト等）で提供した。
- 給食委員会を毎月1回実施し、献立内容と利用者の食事摂取状況等を確認することで提供内容の充実を図った。
- 偏食、肥満、糖尿病等の成人病予防を考慮した食事の提供を行い、必要に応じて家庭との連携を図った。

⑪ 時間外預かり支援（レスパイト）サービスの実施

利用者及びその家庭に対する支援として、通常の営業時間を延長して支援を行った。

- 午前の預かり時間（8：00～8：30） 延べ利用者数 105人
- 平日・午後の預かり時間（17：15～18：30） 延べ利用者数 386人
- 土曜・午後の預かり時間（12：30～18：30） 延べ利用者数 90人

⑫ 防災及び事故防止対策

- 総合防災訓練（年2回）と火災や地震を想定した避難訓練（月1回）を実施して災害時に備えた。訓練は無理のない内容・日程で安全性に配慮し計画を立て実施した。
- 登降園時の安全に配慮し、家庭と連携を密にしながら事故の防止に努めた。

⑬ 苦情解決

- モニタリング等の面談で利用者、家族、関係機関と関係を築き、日々の連絡を重ねたことで特に苦情はなかった。
- 利用者満足度アンケートを年2回実施し、「とても満足している」「まあ満足している」との回答が1回目、2回目とも全体の88.9%で概ね良好な評価が得られた。

⑭ 職員研修

職員の資質向上を図るため、以下の研修に参加した。

ア 職場内研修

- 救命救急法研修（乳幼児） 6月22日 3名
- 救命救急法研修（成人） 7月6日 6名
- 虐待防止委員会研修 3月14日 7名

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

- 山形県知的障害者福祉協会支援力向上研修
6月6日、12月16日、2月20日、3月16日 1名
- 日本知的障害者福祉協会全国知的障害者関係施設長等会議 ※ 8月1日 1名
- 山形県知的障害者福祉協会支援スタッフ部会研修 10月13日 1名
- 山形県知的障害者福祉協会施設長等研修及び県障がい福祉課長との懇談会
11月2日 1名
- 山形県権利擁護セミナー ※ 1月25日 2名
- 山形県知的障害者福祉協会権利擁護セミナー ※ 1月25日 1名
- 東北地区知的障害者福祉協会東北フォーラム ※ 1月26日～27日 1名
- その他 4件 4名

⑮ 地域社会との交流

- 村山総合支庁、村山保健所での収穫物・作品の展示販売（年8回）
- インディアカを通して地元住民との交流（新型コロナウイルスの感染拡大のため中止）

⑯ 保護者との連携

- 毎日の連絡帳により情報交換と相互理解を深め、必要に応じて電話や家庭訪問等により連携を密にし、施設と家庭が一体的かつ継続的に支援ができるように努めた。
- まんさく丘内での展示販売（10月3回）

⑰ 実習生等の受け入れ

- 介護実習 2名
- 保育実習生 4名
- 就業・現場体験（特別支援学校生徒） 2名
- 施設実習（看護学生） 16名
- 介護等体験実習 1名

6 日中短期入所事業所 恵光園

在宅で生活する障がい者が、家族等からの見守りを受けることができない場合に、日中の一定時間にお預かりすることにより、本人及び家族の負担軽減を図った。

年間延べ利用者数は94人で、目標の100名を若干下回った。平日に他事業所のサービスが終了した時間に本事業所を利用する利用者が多く、今後もこの傾向が続くと思われるが、送迎方法について他事業所との連携が課題である。

① 利用状況

事業所名		日中短期入所事業所恵光園											利用定員		5名/日	
事業種別		地域生活支援事業（日中一時支援事業）											目標値		年間延利用者数100名	
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
延利用者数	4時間未満	5	6	6	6	3	3	7	7	10	4	4	7	68人	5.7人	
	4～8時間	2	1	2	2	2	2	1	2	2	1	3	3	23人	1.9人	
	8時間以上	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3人	0.3人	
	計	8	7	9	8	6	5	8	9	12	5	7	10	94人	7.8人	
	前年度実績	6	7	10	7	10	8	11	12	8	8	5	14	106人	8.8人	

7 指定共同生活援助事業所 こもれび

手厚い支援が必要な入居者が安定した日常生活を営むことができるよう個別支援計画に基づき、食事、入浴、排せつ介助等の生活全般の支援を提供した。

令和4年4月に入居者が定員の10名に達し、充足率は100%となった。稼働率は82.4%で、新型コロナウイルスの感染により稼働率が低下した月があった。今後は稼働率を高めつつ、こもれびで提供する日中活動の内容の充実を図る。

① 利用状況

事業所名		共同生活援助事業所こもれび											入居定員		10名/日	
事業種別		障害福祉サービス（日中サービス支援型共同生活援助）											目標値		充足率100%	
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
入居者数（人）		10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120人	10.0人	
定員の充足率（%）		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	100.0%	
営業日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	-	
延入居者数（人）		238	249	267	269	258	229	230	264	260	250	237	255	3,006人	250.5人	
1日平均利用（人）		7.9	8.0	8.9	8.7	8.3	7.6	7.4	8.8	8.4	8.1	8.5	8.2	-	8.2人	
稼働率（%）		79.3	80.3	89.0	86.8	83.2	76.3	74.2	88.0	83.9	80.6	84.6	82.3	-	82.4%	
前年度の入居者数		10	10	10	10	9	9	9	9	9	8	9	9	111人	9.3人	
前年度の充足率		100.0	100.0	100.0	100.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	80.0	90.0	90.0	-	92.5%	
前年度の延入居者数		222	227	220	221	211	210	224	217	212	186	188	224	2,562人	213.5人	
前年度の稼働率		74.0	73.2	73.3	71.3	68.1	70.0	72.3	72.3	68.4	60.0	67.1	72.3	-	70.2%	

② 入居の状況

（令和5年3月31日現在）

入居定員	男	女	入居者数
10人	4人	6人	10人

③ 年齢構成

（令和5年3月31日現在）

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
人数	0人	0人	1人	4人	5人	0人	0人	10人	49.9歳

④ 入居者の日中活動先

（令和5年3月31日現在）

活動場所	生活介護（恵光園）	生活介護（恵光園以外）	就労継続支援B型	地域生活支援事業（生活訓練）	無し	合計
人数	8人	0人	1人	0人	1人	10人

⑤ 入居者への支援

入居者の心身の状態や障がいの状況に応じた個別支援計画を作成し、職員が情報を共有しながら必要な支援を行った。

⑥ 食事の提供

食事についてはまんさくの丘の厨房で調理し、グループホームに運搬して提供する体制であるため、まんさくの丘栄養士と連携し、入居者の食事状況、健康状態に応じて提供した。

⑦ 健康及び衛生管理

- 毎日の健康観察や服薬の管理を実施し、入居者の健康管理に努めた。また、必要に応じて医療機関を受診し、医師等の指示に従い必要な支援を行った。
- 新型コロナウイルスについては、消毒、手洗い等の感染防止対策の徹底、検査キットの活用による早期発見に努めた。9月に入居者・職員に陽性者が発生した際には、保健所の指導に従って事業の継続に努めた。

⑧ 関係機関との連携

日中活動の場となる他事業所や相談支援事業所等と連携し、情報交換、担当者会議を行い、入居者の生活や日中活動の安定を図った。

⑨ 家庭との連携

必要に応じて電話や自宅に帰省する際に必要な情報の共有や意見の交換等を行い、家庭と連携しながら入居者への支援の向上に努めた。

⑩ 防災及び事故防止対策

総合訓練（2回）及び夜間を想定した避難訓練（1回）を実施するとともに、消火器・スプリンクラー等の防災設備の確認を行い、非常時の体制の確立に努めた。

⑪ 苦情解決

寄せられた意見・要望等については、できる限り対応した。

⑫ 職員研修

各種研修会に参加し、職員の資質向上を図るとともに、まんさくの丘で開催された虐待防止委員会研修に参加し、障がい者の権利擁護・虐待防止等について職員の意識を高めた。

8 指定短期入所事業所 こもれび

グループホームこもれびに併設された短期入所1名分については、グループホーム入居者が新型コロナウイルスに感染したため、受け入れを一時中止したものの、年間の延利用者数は321人で令和3年度の228人から93人増加した。今後も登録者は増加する見通しである。

緊急入所用1名分（山形市障がい者地域生活支援拠点等整備事業業務の受託による緊急入所用）については、山形市に居住し市に登録した知的障がい者の方を利用対象とし、緊急の利用又は体験的利用に供したが年間の延利用者数は21人であった。延べ利用者数は減少したが、年末年始の期間中に利用者の受け入れがあり、緊急入所の役割を果たすことができた。

事業所名		短期入所事業所こもれび									利用定員		短期入所1名、緊急入所1名			
事業種別		障害福祉サービス（短期入所）									目標値		年間240日稼働（緊急入所除く）			
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
短期入所	延利用者数(人)	24	23	30	30	32	7	27	31	24	26	24	43	321人	26.8人	
	前年度実績	0	3	11	18	17	26	27	26	24	22	22	32	228人	19.0人	
緊急入所	延利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	5	3	4	9	0	0	21人	1.8人	
	前年度実績	0	0	5	10	0	0	0	2	0	8	4	6	35人	2.9人	

9 宿泊型自立訓練事業 蔵王通勤寮

利用者の就労・生活の安定と地域生活への移行を推進するため、就労事業所、関係機関等と連携を図りながら、個別支援計画に基づき支援を行った。

コロナ禍により引き続き社会見学旅行など行事の開催を中止にせざるを得なかった。

延利用者数は、前年度比419名減の4,837名で稼働率は66.3%で目標値の80%を下回った。利用者は1名増えたが、1年間に3回（8か月）の入院となった利用者がいたためである。

① 利用状況

事業所名		蔵王通勤寮											利用定員		20名	
事業種別		障害福祉サービス（宿泊型自立訓練）											目標値		平均稼働率80%	
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
営業日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	-	
延利用者数（人）		391	397	389	404	434	420	434	394	403	398	372	401	4,837人	403.1人	
1日平均利用（人）		13.0	12.8	13.0	13.0	14.0	14.0	14.0	13.1	13.0	12.8	13.3	12.9	-	13.3人	
稼働率（%）		65.2	64.0	64.8	65.2	70.0	70.0	70.0	65.7	65.0	64.2	66.4	64.7	-	66.3%	
前年度の延利用者数		480	495	427	434	434	416	434	420	443	447	392	434	5,256人	438.0人	
前年度の1日平均利用		16.0	16.0	14.2	14.0	14.0	13.9	14.0	14.0	14.3	14.4	14.0	14.0	-	14.4人	
前年度の稼働率		80.0	79.8	71.2	70.0	70.0	69.3	70.0	70.0	71.5	72.1	70.0	70.0	-	72.0%	

② 入退所の状況 （令和5年3月31日現在）

令和3年度末 在籍者	年度中の増減			令和4年度末 在籍者
	入所	退所	増減	
13人	1人	0人	1人	14人（男10人女4人）

③ 年齢構成 （令和5年3月31日現在）

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計	平均年齢
人数	0人	6人	1人	1人	3人	3人	14人	41.3歳

④ 利用者の日中活動区分 （令和5年3月31日現在）

就労形態	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	生活介護	合計
人数	6人	1人	6人	0人	1人	14人

⑤ 自立能力向上への支援

- 基本的な生活習慣、身辺処理能力及び金銭管理能力の向上を図る支援を行った。
- 自治会活動の充実を図るための支援（年間計画、生活用品購入、当番活動等）を行った。
- 相談支援事業所との契約の支援を行った。

⑥ 就業指導及び職場定着への支援

- 就労事業所及び関係機関との連携を強化し、職場定着を目指した訪問等を行った。

⑦ 食生活への支援

- 給食委員会を毎月1回実施し、献立内容と利用者の食事摂取状況を把握するとともに、年間計画に基づき季節感のある給食の提供を行った。
- 利用者の嗜好に関する調査を毎月行い、希望を集約して実際の献立に反映させた。
- 定期的に栄養士が食事の実態を確認し、必要に応じて食事指導及び助言を行った。
- 食生活及び調理に関する知識と技能を高める支援を行った。

⑧ 余暇活動への支援

例年どおりに行事を開催できなかったが、感染対策を講じた上で誕生会（毎月）、外食（不定期）、余暇活動(11月)、忘年会(12月)を開催し、できる限り生活の質の向上を図った。

⑨ 健康及び衛生管理

- 健康診断等の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	7人	5人	0人

- 健康診断の結果、精密検査や治療を要するケースには迅速に対処した。異常が認められた利用者には再検査を行った。
- 感染症や食中毒の予防のため、検便を実施した。（職員：毎月、利用者：年6回）
- 新型コロナウイルス等の感染防止を図るため、手洗い・手指消毒等を徹底した。
- 病気等の予防、通院及び治療など自己管理能力の向上を図る支援を行った。
- インフルエンザ等の有症状者が発生した場合は隔離等を行った。また、就労事業所等に連絡して対応を協議した。
- 新型コロナウイルスの感染防止のため、利用者に外出・外泊の自粛を求めた。
- 新型コロナウイルスのワクチン接種に関する説明、実施の支援を行った。
- 通院・入院の状況

受診内容による分類	内科	精神科	てんかん	脳神経外科	歯科	外科	皮膚科	眼科	耳鼻科	整形外科又は接骨院	婦人科	泌尿器科
通院治療（回）	61	64	6	0	32	5	21	15	18	9	1	2
うち実人数（人）	9	8	2	0	4	3	6	7	6	2	1	1
入院治療（日）	0	233	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
うち実人数（人）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑩ 災害防止対策

- 総合防災訓練（2回）及び防災研修（1回）を実施した。
- まんさくの丘全体で実施する避難訓練に参加した。（月1回）
- 発電機の操作及び作動確認を行った。（2回）

⑪ 関係機関・保護者との連携

- 福祉事務所とのケース検討会
- 就業・生活支援センター、相談支援事業所及び就労事業所との連携

- コロナ禍のため、保護者会及び三恩会総会の開催を見送った。

⑫ 苦情解決

- 利用者にアンケート調査を実施した。(10月、3月)
- 今年度も苦情はなかった。

⑬ 職員研修

ア 職場内研修

• 救命救急研修（乳幼児）	6月22日	1名
• 救命救急研修（成人）	7月6日	1名
• 虐待防止委員会研修	3月14日	2名

イ 職場外研修（※はオンライン研修）

• 東北地区福祉協会定時総会及び施設長・管理者等連絡会 ※	6月16日	2名
• 第4回支援力向上研修会 ※	6月29日	2名
• 第1回山形県知的障害者福祉協会山形支部会研修会 ※	7月21日	1名
• 福祉サービス苦情対応実践研修会「苦情解決システムと苦情受付の実際」 ※	7月29日	1名
• 山形県サービス管理責任者研修更新研修	8月4日	1名
• 福祉サービス苦情対応実践研修会「事例から見た苦情解決の実際」 ※	9月26日	1名
• 施設長等研修会及び山形県障がい福祉課長との懇談会	11月2日	1名
• 山形県知的障害者福祉協会研修会	11月25日	1名
• 権利擁護推進委員研修会 ※	1月26日	1名
• その他 2件		2名

10 指定共同生活援助事業所 蔵王

個別支援計画に基づき、金銭管理、居室の清掃等の生活環境の改善、就労事業所と連携した職場定着を図るため支援を行った。

令和4年度は新たな入居に至らず、年度末に養護老人ホームへの入所による退居者1名がいたため、充足率は95.5%となった。引き続き入居者の確保に向けて、調整等を進めていく。

一部入居者の高齢化で健康に問題を抱えるケースが増えており、保護者や世話人と連携しながら個別支援を行うとともに、退居を見据えたその後の生活場所等を関係機関と協議した。

① 利用状況

事業所名	共同生活援助事業所蔵王（グループホーム6箇所：定員各4名）												入居定員		24名	
事業種別	障害福祉サービス（外部サービス利用型共同生活援助）												目標値		充足率100%	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均		
入居者数（人）	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	22	275人	22.9人		
定員の充足率（%）	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	91.7	-	95.5%		
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	-		
延入居者数（人）	690	708	690	713	713	690	713	690	713	701	644	695	8,360人	696.7人		
1日平均利用（人）	23.0	22.8	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	22.6	23.0	22.4	-	22.9人		
稼働率（%）	95.8	95.2	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	95.8	94.2	95.8	93.4	-	95.4%		
前年度の入居者数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	286人	23.8人		
前年度の充足率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	95.8	95.8	-	99.3%		
前年度の延入居者数	702	713	713	744	744	720	744	720	740	716	644	713	8,613人	717.8人		
前年度の稼働率	97.5	95.8	99.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.5	96.2	95.8	95.8	-	98.3%		

② 入居の状況 （令和5年3月31日現在）

名称	飯田荘	みどり荘	さくら荘	わかば荘	あすなろ荘	わかくさ	合計
入居人数	4人	4人	3人	3人	4人	4人	22人（男11人・女11人）

③ 年齢構成 （令和5年3月31日現在）

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
人数	0人	0人	5人	6人	6人	5人	0人	22人	49.7歳

④ 入居者の就労区分 （令和5年3月31日現在）

就労形態	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生活介護	無職	合計
人数	14人	4人	4人	0人	0人	22人

⑤ 入居者に対する支援（延件数）

- 社会生活上の相談及び支援（321回）
- 余暇活動の支援（1回）
- 職場訪問及び就労支援（41回）
- 関係機関との連携（61回）
- 対人関係の調整（21回）
- 買物等の支援（58回）
- 問題行動への対応（14回）

⑥ 世話人に対する指導

相談及び業務指導（78回）

⑦ 健康及び衛生管理

- 健康管理に関する支援（188回） ※新型コロナウイルスのワクチン接種を含む。
- 医療機関への受診支援（63回）
- 入居者の健康診断の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	9人	17人	2人

- ⑧ 地域生活関連
地域生活への適応に関する支援（6回）
- ⑨ 関係機関・保護者との連携
相談支援事業所との連携（87回）
※コロナ禍のため、保護者会、三恩会総会の開催を見送った。
- ⑩ 災害防止対策
- ・蔵王通勤寮で実施した総合防災訓練に参加した。（2回／10月、2月）
 - ・グループホームごとに防災設備の説明、消火訓練、避難経路の確認を行った。（2月）
- ⑪ 苦情解決
今年度は苦情がなかった。

11 指定相談支援事業所 まんさく

障がいのある人の自立した日常生活、社会生活を実現できるよう支援するため、サービス提供事業者や市町村、教育機関等の関係機関と連携しながら、日常生活や必要なサービスの利用等の全般的な相談に応じ、サービス利用計画の作成、申請等の支援を実施した。また、山形市の委託相談支援事業所として、山形市自立支援協議会の運営等に努めた。

令和4年度は、新たに配置された職員が年度途中で相談支援専門員の資格を取得するまで実績に貢献できなかったものの、特定相談102件、障害児相談351件については概ね目標値に近い実績となり、特定相談継続支援129件、障害児相談継続支援215件については目標値を上回ることができた。

① 新規相談件数・連絡調整件数

事業所名	相談支援事業所まんさく												利用定員	-名	
事業種別	障害児相談支援、一般相談支援、特定相談支援												目標値	※	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
特定相談（件）	13	5	10	6	13	2	12	5	9	7	13	7	102件	8.5件	
特定相談継続支援（件）	7	6	7	16	11	11	16	6	8	10	11	20	129件	10.8件	
障害児相談（件）	76	20	18	31	23	24	26	31	30	30	17	25	351件	29.3件	
障害児相談継続支援（件）	14	16	21	16	17	18	14	8	18	20	24	29	215件	17.9件	

※（目標値）特定相談105件、特定相談継続支援105件、障害児相談360件、障害児相談継続支援175件

② 新規相談件数（形態別）

区分	平日	時間外	休日	合計
電話	266	0	0	266件
来所	93	0	0	93件
訪問	22	0	0	22件
その他	0	0	0	0件
合計	381件	0件	0件	381件

③ 相談者

区 分	件 数	区 分	件 数
本人・家族等	235	行政機関	4
民生委員	0	教育委員会	0
ケアマネジャー	2	山形市からの依頼	4
サービス提供事業所	135	その他（知人等）	1
医療機関	1	合 計	382件

④ 主な相談内容

内 容	件 数	内 容	件 数	内 容	件 数
サービス利用支援	2,160	保育・教育支援	706	雇用・就労支援	205
障がい・病状理解支援	346	家族・人間関係支援	60	社会参加・余暇活動支援	54
健康・医療支援	287	家計・経済支援	100	権利擁護・成年後見関係	15
不安解消・情緒支援	632	生活に関する支援	28	虐待に関する支援	5
そ の 他	0			合 計	4,598件

⑤ 相談後の連絡調整

区 分	件 数	区 分	件 数
本人・家族等	2,065	医療機関	91
民生委員・近隣関係	1	行政機関	766
ケアマネジャー	40	その他	186
サービス提供事業所	2,285	合 計	5,434件

⑥ 申請手続き

項 目	申請・処理件数	項 目	申請・処理件数
介護給付費支給申請	111	サービス等利用計画申請(者)	84
訓練等給付費支給申請	4	障がい児支援利用計画申請(児)	327
地域生活支援事業申請	41	福祉タクシー券・給油券	57
手帳申請関係	5	その他	4
自立支援医療請求	2		
障がい児通所給付費支給申請	323	合 計	958件

⑦ 障がい種別

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	難 病	その他	合 計
25	147	19	98	2	90	381人

⑧ カフェレンス等の開催件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	9	7	4	3	2	1	6	3	3	3	6	51件

⑨ 地域との連携（※はオンライン会議）

- ・山形市相談支援センター合同会議 1月24日 1名
- ・村山地域精神障がい者地域移行・地域定着支援推進会議 ※ 12月21日 1名
- ・村山地域医療的ケア児支援連絡会 ※ 2月8日 1名

- たきやま地域包括支援センターネットワーク連絡会 3月17日 1名
- ⑩ 職員研修（※はオンライン研修）
 - 山形県障がい者相談支援従事者研修（初任者研修）
 - 8月18日～19日、30日～31日、10月6日、25日～26日 1名
 - 山形県医療的ケア児等支援センターキックオフミーティング（基礎研修・討議）
 - 6月19日 1名
 - 山形県強度行動障がい支援者養成研修 9月15日～16日、9月29日～30日 1名
 - 東北ブロック相談支援従事者主任研修（演習） 1月30日～31日、2月9日～10日 1名
 - 障がい者の権利擁護セミナー 3月13日 1名

IV 児童養護施設 山形学園

令和4年度は、安定した環境の中で子ども達一人ひとりが心身共に健やかに過ごし、大切にされていると実感できるように配慮しながら、将来に向けて生きがいを持ち、人生を切り拓いていく力を育むことができるよう支援にあたった。

年間を通して、新型コロナウイルスの感染防止に苦慮しながら、子ども達の学校生活への影響を最小限に留め、社会体験の機会を確保できるよう努めた1年であった。

夏休み期間中の海水浴後に、子どもと職員の複数名が新型コロナウイルスに感染し、クラスターとなったが、その後の感染対策の徹底により感染を拡大させずに収束することができた。

ユニット毎の蔵王温泉への宿泊旅行は、前年度よりも行程や内容をさらに充実した形で実施することができた。また、3年ぶりに佐藤山形市長よりご来園いただき、もちつき会を実施することができた。それらの行事が子ども達にとって生活の活力となっている姿が見られた。

施設であってもより家庭に近い形で養育できるよう、今後も子ども達の声に耳を傾け、寄り添いながら、ユニット制を活かした支援に努めていく。

① 入退所の状況

事業所名		山形学園											入所定員		40名	
事業種別		児童養護施設											数値目標		-	
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本 年 度	入所児童数	32	32	32	32	32	32	32	33	33	33	33	30	386人	32.2人	
	新規入所	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2人	0.2人	
	退所児童数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5人	0.4人	
	入所率(%)	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	82.5	82.5	82.5	82.5	75.0	-	80.4%	
児 童 内 訳	高校生	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	5	104人	8.7人	
	中学生	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84人	7.0人	
	小学生	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12	133人	11.1人	
	幼児	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	65人	5.4人	
	3歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人	
	計	32	32	32	32	32	32	32	33	33	33	33	30	386人	32.2人	
前年度入所児童数		29	32	32	33	33	34	35	35	34	34	35	33	399人	33.3人	
前年度の入所率		72.5	80.0	80.0	82.5	82.5	85.0	87.5	87.5	85.0	85.0	87.5	82.5	-	83.1%	

※入所児童数は、毎月末日現在の人数

② 入所理由区分

(令和5年3月31日現在)

虐待	保護者の疾患等	経済的理由(破産等)	その他	合計
24	0	0	6	30人

③ 障がい等区分

(令和5年3月31日現在)

知的障がい児	注意欠陥/多動性障がい (ADHD)	広汎性発達障がい
8人	5人	2人

④ 退所児童状況

〈自立〉

- ・県内就職 3名 (うちグループホーム入居1名)

- 県内進学 1名

⑤ 児童処遇

ア 年少児

- 基本的な生活習慣の確立及び遊びを通して心身両面の育成に取り組んだ。
- 幼稚園を活用しながら、集団生活への適応力の向上を図った。
- 幼稚園入園前の幼児は、地域の子育てサロンや幼稚園の遊びの教室に参加し、地域との交流及び集団参加の体験を増やした。

イ 小学生

- 基本的な生活習慣の習得に努めた。
- 余暇活動や遊びを通して、情緒の安定を図り心身両面の育成に努めた。
- 学校との日常の相互連絡や連絡会(年2回)等を通して、生活と学習の向上につなげた。
- 長期休みに子ども達の自主グループでの学習会を設け、効果が見られた。
- 居室単位の活動やグループ活動を通して、協調性や自主性の高揚につなげた。

ウ 中学生・高校生

- 部活動と学業の両立が図れるように指導にあたった。
- 進路指導については学校等と連携し、進路目標を立て意識の高揚を図った。
- 基本的な生活習慣の習得を図り、社会性・協調性及び自立意欲の向上に努めた。
- スポーツ活動等を通して、情緒の安定を図り心身両面の育成につなげた。
- 高校卒業後の進路については、学校や関係者等と連携を図りながら十分な情報提供を行い、本人の意思を尊重しながら進めた。
- 高校3年生や高学年児童に対して、フレッシュマンスタート講座5回を実施した。

〈フレッシュマンスタート講座〉

	講座内容	講師等
第1回	法律教室	山形県青年司法書士会 古内あかり 氏他
第2回	ライフデザイン	MOTHER design わだゆきこ 氏
第3回	性と生	助産師 山口節子 氏
第4回	ふれあいルームで一人暮らし体験	山形学園 職員・栄養士
第5回	公的な手続きの体験	山形学園 職員

- ステップアップ講座として、特別支援学校の児童が宿直員の指導により園内の環境整備を月6回実施した。

エ 全児童

- 個々の児童の意見が尊重される環境作りとその対応の充実を図った。
- 小中学校でタブレット端末での学習が導入され、児童一人ひとりがタブレットを持ち帰って課題に取り組む機会が増えたことに伴い、端末の使い方や学習の支援を行った。
- 調理実習やおやつ作りを実施し、生活技術の習得と変化のある生活作りに努めた。
- 感染防止対策を徹底した上で園外活動を実施し、社会体験の機会を確保した。
- 児童相談所や関係機関との連携を図り、処遇の向上に努めた。
- 以下の研修に参加した。

○いのちの学習（誕生学） 2月26日 14名参加

○生きるためのいのちの教育（紙芝居） 9月20日 11名参加

⑥ 健康衛生管理

ア 感染症予防対策を徹底し、児童の健康維持と感染症の予防に努めた。

イ 健康診断を年2回実施した。

ウ 毎日の健康観察により、疾病の早期発見と早期治療に努めた。

エ 児童の検便を年3回実施し、感染症の予防に努めた。

オ 医療状況

区 分	内科	外科	皮膚科	歯科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	精神科	計
服薬(実人数)	11	0	2	0	0	9	4	0	2	28人
通院(延人数)	117	0	53	21	30	33	27	0	22	303人
入院(延人数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
計	128	0	55	21	30	42	31	0	24	331人

⑦ 給食の状況

ア より家庭的な雰囲気になるように、献立、食器、提供の仕方などを工夫した。

イ 年齢に適した栄養の供給に努めた。

ウ 隔月に給食委員会を開き、適切な食事内容の検討や食生活への興味や関心を高めた。

エ 衛生的な食事環境作りに配慮し、正しい食習慣の確立に取り組んだ。

オ 食事作り、配膳、食器洗い、米とぎなど子ども達がお手伝いする機会を増やした。

カ 行事食、郷土食、会食、外食、希望献立などを実施し、楽しく変化に富んだ食生活に努めた。

キ 手作りおやつを実施し、一緒に作る場面を増やし手作りの良さを児童に伝えた。

ク ユニット調理を実施し、生活技術の向上を図った。(土・日・長期休み)

ケ 畑で作った野菜を食事に使用するなど食育に力を入れた。

⑧ 行 事

生活の潤いと集団生活への適応や協調性の向上を図るために次の行事を実施した。

月	行 事 内 容
4月	職員歓迎会、入学祝い
5月	端午の節句、バーベキュー
6月	蔵王クリーン作戦
7月	七夕
8月	収穫祭、グループ旅行
9月	お月見 日帰り旅行
10月	ふれあいまつり
11月	七五三、日帰り旅行
12月	クリスマス会
1月	だんご木刺し、もちつき会
2月	節分、スキー教室
3月	雛まつり、退園生激励会、卒業祝い、職員送別会

⑨ 地域活動と社会資源の活用

ア 地域交流を目的とした行事は規模を縮小して施設内で実施した。地元の行事への参加や介護施設でのボランティア活動などは感染防止の観点から昨年度に続き実施できなかった。

イ ボランティアや慰問等の受け入れ

1個人8件の慰問の受け入れを行った。

ウ 実習生の受け入れ

- ・資格取得のための実習 4年大学4名、短期大学7名
- ・介護体験実習 4年大学4名

⑩ 家族との関係作り・調整

ア 家庭へのファミリー・ケースワークを行い、早期家庭復帰が可能か検討を重ねた。

イ 家族も一緒に参加できる行事等では、親子関係の再構築や家族との関係作りに努めた。

ウ 夏休みや冬休みなどに、家庭への一時帰省を実施した。

エ 家族等との交流のない児童には、家庭生活体験事業を実施した。(3家庭に5名の児童、延べ28日)

オ 家庭訪問(新型コロナウイルス感染防止のため未実施)

⑪ 里親支援

- ・学園児童の里親委託 0件
- ・里親サロン 3回 延べ35名
- ・家庭訪問 6回

⑫ 職員会議・委員会等

運営会議12回、職員会議13回、処遇会議3回、フロアー会議13回、給食委員会6回、ケース検討会12回、ケースカンファレンス5回、心理療法士・職員に対する専門医の助言等(心理療法スーパービジョン)10回(オンライン会議)

⑬ 職員研修

職員の資質向上のため、オンラインを利用した研修に積極的に参加した。また、感染症の予防や拡大防止のため、感染症に関する研修を実施した。

ア 内部研修会

- ・新採職員研修 6月29日
- ・AED研修 7月19日

イ 外部研修会(※はオンライン研修)

- ・里親研修 4月22日 3名
- ・東北ブロック研修会 6月30日～7月1日 2名
- ・東北ブロック児童養護施設研究協議会 9月15日～16日 4名
- ・山形県児童養護施設協議会研修会 11月17日 7名
- ・セカンドステップ研修会 11月23日 1名
- ・安心安全レベルアップ研修 12月16日 2名
- ・虐待防止セミナー ※ 2月27日 15名
- ・その他 2件 2名

⑭ 災害防止

ア 防災計画に基づき、定期的に総合防災訓練・消火訓練（2回）及び避難訓練（12回）を実施した。

イ 自転車の安全点検を行った。

ウ 登下校や外出時の事故防止のため、交通安全教育を実施した。

⑮ 心理療法の実施

ア 実施児童数 20名

イ 心理療法等の回数

・心理療法 751回 ・セカンドステップ 21回 ・サードステップ 8回 計780回

ウ 対象児童の年齢・主訴別数

	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	その他	計
3歳～学齢前	0	0	1	0	1人
小学生	7	0	1	2	10人
中学生	1	2	0	2	5人
高校生、その他	0	3	0	1	4人
計	8	5	2	5	20人

⑯ 苦情解決

要望や意見はあったが、その都度話し合いで解決することができた。

⑰ こどもショートステイ事業（山形市委託事業）

家庭を取り巻く環境が複雑化している中で、子育て支援事業の一環として実施し、令和4年度は7名（延14日）の利用実績があった。

V 高齢者総合福祉施設すげさわ

理念である「入所者・利用者、誰もが安心できる暮らしの実現」に向けて業務にあたった。経営的には、「すげさわ」の各事業所が介護報酬による経営の維持に取り組んだ。

① 介護保険制度に対応し、次の事項に取り組んだ。

- ア 介護報酬による経営の維持
- イ 給付管理と介護報酬事務の正確化
- ウ 利用者の確保
- エ サービスの質の向上
- オ ケアプラン・リハビリプラン・栄養マネジメントの適正度と実施度の向上
- カ 地域支援機能の強化

② 地域との交流

夏祭り及び敬老会は、新型コロナウイルスの感染防止のため、ご家族や外部への案内を自粛し、施設内で入所者と職員のみで開催した。

③ 地域貢献活動

すげさわ団地内市道のごみ拾い、市有地の除草、資源回収への協力等を実施した。

④ 地域との連携

ア 地区会議への参加

コロナ禍のため、案内いただいた中で必要最小限の参加とした。

イ 地区内学校の入学式への参加

コロナ禍により案内がないため、参加はなかった。

⑤ 地区自治会、近隣施設との連携

ア 防災協力を図るため、防災訓練を実施したが、地区等への参加案内は自粛した。

イ 本沢地区と福祉施設との災害時相互応援協定連絡会議は、コロナ禍のため開催見送りとなった。

⑥ 「すげさわ経営健全化プロジェクト会議」の開催

すげさわの経営状況の情報共有、経営安定化に向けた事業の検討のため、各部所より中堅役職員の会議を開催した。

⑦ 「すげさわ経営会議」の開催

総合福祉施設として、有機的な連携を図ることや経営状況を共有するため、各部所幹部職員の会議を開催した。

⑧ 職員研修の実施

職員の資質の向上を図るため、次の研修を実施した。

ア 内部研修（※は、新型コロナウイルス感染予防のため書面開催）

実施月	研修内容	講師等
4月	事業計画書説明 ※	研修委員会
5月	救命救急（心肺蘇生・AEDの使用）	防災委員会
6月	認知症について 食中毒予防について	研修委員会 田中主任管理栄養士

9月	倫理・常識・法令遵守について ※	研修委員会
10月	感染症について	安全衛生委員会
11月	医療に関する研修について ※	医務室
12月	高齢者虐待・身体拘束について ※	リスクマネジメント委員会
1月	看取りに関する研修 ※	研修委員会
2月	研究発表	研修委員会
3月	財務報告	伊藤壮一業務調整主査

イ 外部研修（県内外）

コロナ禍のため、オンライン研修に参加した。

⑨ 各種委員会

ア 安全衛生委員会

職員の健康診断（インフルエンザワクチン接種、新型コロナウイルスワクチン接種）、メタボリックシンドロームに着目した特定健診及び特定保健指導、感染症マニュアルの見直し、産業医との連携、水道水残留塩素測定、ストレスチェック等を実施した。

イ 防災委員会

各種想定防災訓練、防災マニュアルの見直し、機器取扱マニュアル、自主点検、緊急連絡網の作成を行った。

ウ 広報委員会

すげさわ通信（機関紙）、家族会だより、施設のパンフレット作りを行った。ホームページを利用したショートステイ、デイサービスセンターの空き情報の発信や施設の様子の紹介にも力を入れた。

エ リスクマネジメント委員会

ヒヤリハット報告書などを通して、事故の分析・リスクの回避・安全な環境の提供・介護事故防止に努めた。虐待や身体拘束の研修を行い、発生防止の徹底を図った。

オ 研修委員会

実地指導に義務づけられた研修を中心に開催した。また、全体会については新型コロナウイルスの感染防止を図るため、参加人数の制限や座席の配置を工夫して開催したほか、書面開催も併用した。

カ 食事の委員会

選択食の希望調査、水分補給用飲み物の在庫管理、経口維持及び食事についての提案等を行った。

キ 褥瘡・リハビリ委員会

褥瘡の予防、褥瘡のある方の対応に力を入れた。褥瘡予防のため、電動体位交換ベッドを活用した。

ケ 痰吸引委員会

痰吸引研修を修了した介護職員が、看護職員との連携・協働のもとに痰吸引や経管栄養（医療的ケア）の取り扱いを迅速かつ安全に実施できるように取り組みを行った。

また、介護福祉士の資格を持ち採用となった職員2名について、県に対して介護福祉士

喀痰吸引実地研修機関の登録を行い、施設内での演習を実施し、実地研修を修了した。

コ レクリエーション委員会

各ユニットでレクリエーション活動を展開し、装飾や季節が感じられる活動を実施し、入所者に潤いを提供した。

1 特別養護老人ホーム菅沢荘（介護老人福祉施設）

安心・安全な介護、事故及び各種感染症の防止に努めたが、県内の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、9月と1月にクラスターが発生し、入所者・職員に感染の拡大が見られた。ベッドの稼働率は目標の95%を上回り97.1%であった。

自主事業の認知症カフェは、新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら、11月から1月に3回開催した。地域貢献事業の一環として、毎月2回本沢地区の高齢者を対象に買物支援事業を実施しているが、コロナ禍のため1月から3月までは中止とした。

① 利用状況

事業所名	特別養護老人ホーム菅沢荘											入所定員		82名	
事業種別	介護老人福祉施設											目標値		稼働率95%	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	-	
延入所者数(人)	2,460	2,524	2,352	2,435	2,476	2,385	2,430	2,407	2,493	2,457	2,136	2,512	29,067人	2,422.3人	
稼働率(%)	100.0	99.3	95.6	95.8	97.4	97.0	95.6	97.8	98.1	96.7	93.0	98.8	-	97.1%	
平均要介護度	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	-	3.9	
前年度の延入所者数	2,331	2,479	2,381	2,467	2,441	2,366	2,476	2,351	2,468	2,477	2,177	2,459	28,873人	2,406.1人	
前年度の稼働率	97.1	100.0	99.2	99.5	98.4	98.6	99.8	98.0	99.5	99.9	97.2	99.2	-	98.9%	

② 年齢構成

(令和5年3月31日現在)

年齢	60～69歳	70～75歳	76～80歳	81～85歳	86～90歳	91～95歳	96歳以上	計	平均年齢
人数	1	5	10	15	16	23	11	81人	87.7歳

③ 介護状況

(令和5年3月31日現在)

区分	食事			入浴			トイレ動作			整容			更衣			椅子とベッド間の移乗			歩行				
	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	一	全	自	見	座	全	自	歩	車	全
	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	部	介	立	守	れる	介	立	行	い	介
	助	介	助	助	介	助	助	介	助	助	介	助	助	助	助	立	り	が	助	立	器	す	助
	助	介	助	助	介	助	助	介	助	助	介	助	助	助	助	立	介	移	助	立	等	操	助
	助	介	助	助	介	助	助	介	助	助	介	助	助	助	助	立	れ	れ	助	立	等	作	助
	助	介	助	助	介	助	助	介	助	助	介	助	助	助	助	立	ない	ない	助	立	等	が	助
人数	38	26	17	0	52	29	5	36	40	10	44	27	6	41	34	5	30	24	22	0	14	35	32

④ 身体拘束ゼロへの取り組み

拘束は行っていない。

⑤ ケアプランに基づくサービスの提供

ア ケアプランの精度を高め、かつ実施度を上げることに努めた。

イ ケアカンファレンスを随時開催し、迅速なケアプランの見直しを行った。

ウ 定期的なモニタリングを実施した。

⑥ ユニットケアの実施

内容の充実を図った。

⑦ 個別的ケアの実施

ア 個別的な関わりを入所者に対して適時実施した。

イ 個別的ケアでは、手浴、足浴、散歩、リハビリ、整容等を実施した。

⑧ 入所者の安全と健康の確保

ア 安全衛生委員会を中心に、疥癬、レジオネラ菌、ノロウイルス、インフルエンザ及び特に新型コロナウイルス等の感染予防に努めた。

イ 安定した健康状態の保持と早目の処置対応に努めた。

ウ 健康診断の実施

エ インフルエンザ予防接種を入所者及び職員が接種し、流行を防止できた。

オ 嘱託医と協力病院との連携に努めた。

カ 健康管理状況

(令和5年3月31日現在)

区分	内科	精神科	皮膚科	菌科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	婦人科	外科	その他	計
服薬(実人数)	81	19	13	0	6	0	0	0	0	0	0	119人
通院(延人数)	23	1	10	0	14	1	6	19	4	37	5	120人
入院(延人数)	17	3	0	0	0	0	0	2	0	0	6	28人
計	121	23	23	0	20	1	6	21	4	37	11	267人

⑨ 栄養管理

ア 他職種との協働で適切な栄養ケアマネジメント及び経口維持の取り組みを実施し、個別の栄養管理を行った。

イ 行事食の提供

新型コロナウイルスの影響や給食献立業務の全面委託等により、行事食の提供が減少した。(選択食23回、季節に合わせた節句料理やお祝い膳11回、ところ天の会1回 計35回)

ウ 飲酒の日の開催(毎週木曜日)

エ 食事の種類

一般食 普通食60人(高栄養ゼリー、高栄養流動食含む)

療養食 糖尿病食10人、肺炎食0人、心臓病食3人、経管栄養食8人 計82人

オ 食事形態

(令和5年3月31日現在)

主食	ごはん	軟ごはん	全粥	ミキサー粥	ソフト粥	パン	計
人数	25	8	24	4	8	0	69人

副食	常食	キザミ食	極キザミ食	ミキサー食	計	うちソフト食併用者
人数	25	17	18	9	69人	17人

流動食	高栄養ゼリー	高栄養流動食	経管栄養	計
人数	5	4	8	17人

※うち食事併用者5人

⑩ 作業療法士によるリハビリテーション

(令和5年3月31日現在)

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
評価	82	86	84	86	83	82	88	87	85	83	89	89	1,024人	85.3人
個別	45	28	40	32	27	44	30	48	51	38	22	45	450人	37.5人
その他	1	2	1	0	1	0	1	3	7	3	0	5	24人	2.0人
福祉用具	5	2	2	2	1	0	2	1	1	0	0	1	17人	1.4人
計	133	118	127	120	112	126	121	139	144	124	111	140	1,515人	126.3人

⑪ 行事・レクリエーション

生活の潤いと楽しさを演出するため、新型コロナウイルスの感染防止を図りながら、次の行事を実施した。

ア 全体行事 夏祭り、敬老会、芋煮会（それぞれ職員と入所者のみの参加）

イ 季節行事 花見、節句、七夕、紅葉狩り、クリスマス会、正月

ウ 活動 朝の体操、創作活動、書道、絵画等

エ レクリエーションワーカーによる各種レクリエーションの実施

⑫ 各種会議の開催

入所者の処遇の安定と向上を図るため、新型コロナウイルスの感染防止を図りながら、次の会議及び委員会を開催した。

- すげさわ経営会議 10回
- ユニット職員会議 10回
- カンファレンス 20回
- 各種委員会の開催 98回
- 職員全体会議 5回

⑬ 入所決定会議の開催

次の入所者を選出するため、緊急性・透明性・公平性に留意し、年2回開催した。

⑭ 災害訓練

- 総合防災訓練（地震・火災避難訓練） 各1回
- 部分訓練 4回
- 防災機器取り扱い講習 1回
- 夜間想定避難訓練 1回
- 防災設備自主点検 12回
- 通報招集訓練 1回

⑮ 実習生等の受け入れ（新型コロナウイルスの感染拡大のため受け入れ中止）

- 施設実習 0名
- 介護初任者研修 0名

⑯ ボランティア活動（新型コロナウイルスの感染拡大のため受け入れ中止）

- 不定期的活動 0人
- 年間延べ活動人数 0名

⑰ 苦情解決

今年度は苦情がなかった。

⑱ 家族会との連携（コロナ禍のため実施内容を制限）

- 夏祭りや敬老会の共催は、新型コロナウイルスの感染防止のため自粛していただいた。
- アンケート調査の実施

⑲ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（山形市委託事業）

高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に生活援助員を派遣し、入居者の安否確認、

生活相談を実施し、関係機関と連携に努め、入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営南山形住宅（E棟） 35世帯のうち、シルバーハウジング10世帯
- ・市営南山形住宅（G棟） 32世帯のうち、シルバーハウジング10世帯

ア 安否確認

入居者の希望を考慮して確認の曜日を定め、電話又は訪問により安否確認を実施した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	20	19	22	20	22	20	21	20	23	19	19	22	247日
電 話	86	94	97	86	102	87	93	95	82	80	80	89	1,071回
訪 問	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3回
計	86	94	97	87	102	87	94	95	82	81	80	89	1,074回

イ 生活相談

毎月相談日（月8時間）を設け、市営住宅の相談室において生活相談等を行った。生活援助員では対応できない相談については、関係機関と協議して対応した。

〈E棟・G棟〉

内 容	相 談 の 形 態				計
	電 話	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	2	0	0	0	2件
福 祉	0	0	0	0	0件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	0	0件
計	2	0	0	0	2件

ウ 緊急対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、電話及び訪問により速やかに状況を確認し必要な対応を行った。夜間・休日の通報及び初期対応を警備会社に委託し、連絡を受けた場合は職員が迅速に対応した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	0	0	9	0	0	1	1	1	0	0	0	0	12件
誤報(時間外)	0	2	3	0	0	2	3	0	2	0	2	0	14件
計	0	2	12	0	0	3	4	1	3	0	2	0	27件

エ 一時的家事援助

〈E棟・G棟〉 0件

オ 関係機関との連携

毎月、市長寿支援課に実績報告を行い、生活状況や介護の状態の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

〈E棟・G棟〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3件
サービス業者	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
長寿支援課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
住宅管理センター	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1件
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	0	0	3	0	1	1	0	2	0	0	1	0	8件

2 菅沢荘ショートステイ（短期入所生活介護事業）

稼働率は64.6%から97.2%で推移し、月により変動が激しかった。特別養護老人ホームにおいて新型コロナウイルスのクラスターが発生したため、保健所の指導により9月中旬から10月初旬まで新規利用者の受け入れを停止した。平均稼働率は82.1%となり、令和3年度の85.8%を下回った。苦情はなかった。

① 利用状況

事業所名	菅沢荘ショートステイ												利用定員	18名/日
事業種別	(介護予防)短期入所生活介護												目標値	稼働率90%
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365日	-
延利用者数(人)	446	463	432	479	449	349	410	481	447	437	490	511	5,394人	449.5人
稼働率(%)	82.6	83.0	80.0	85.8	80.5	64.6	73.5	89.1	80.1	78.3	97.2	91.6	-	82.1%
平均要介護度	2.3	2.7	2.4	2.0	2.5	2.2	2.3	2.8	2.5	2.4	2.7	2.6	-	2.5
前年度の延利用者数	470	463	490	468	518	514	579	503	570	590	514	584	6,263人	521.9人
前年度の稼働率	78.3	74.7	81.7	75.5	83.5	85.7	93.4	83.8	91.9	95.2	91.8	94.2	-	85.8%

② 作業療法士によるリハビリテーション

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
評価	0	3	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1	8人	0.7人
個別	1	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	5人	0.4人
運動療法	157	161	188	163	139	67	131	169	121	98	201	207	1,802人	150.2人
福祉用具	1	2	0	2	2	2	2	0	0	1	1	0	13人	1.1人
その他	13	3	5	10	10	4	1	8	5	0	1	0	60人	5.0人
計	172	169	193	175	152	73	139	177	128	99	203	208	1,888人	157.3人

3 菅沢デイサービスセンター 通常型・認知症型（通所介護事業）

特別養護老人ホームで新型コロナウイルスのクラスターが発生し、9月中旬から10月初旬まで営業を停止した影響もあり、通常型の平均稼働率は68.9%で令和3年度の71.8%を下回った。認知症型の平均稼働率は17.1%で令和3年度の29.1%を下回った。

① 利用状況

事業所名	菅沢デイサービスセンター（通常型）												利用定員	25名/日
事業種別	通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス）												目標値	稼働率85%
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営業日数	21	22	23	21	23	22	21	22	22	20	20	23	260日	-
延利用者数（人）	419	431	430	410	433	172	367	407	338	323	336	413	4,479人	373.3人
1日平均利用（人）	20.0	19.6	18.7	19.5	18.8	7.8	17.5	18.5	15.4	16.2	16.8	18.0	-	17.2人
稼働率（%）	79.8	78.4	74.8	78.1	75.3	31.3	69.9	74.0	61.5	64.6	67.2	71.8	-	68.9%
平均要介護度(総合事業除く)	1.8	1.9	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.8	-	1.8
前年度の延利用者数	372	420	402	398	354	429	397	408	387	332	339	429	4,667人	388.9人
前年度の稼働率	67.6	80.0	73.1	69.2	64.4	78.0	75.6	74.2	70.4	66.4	67.8	74.6	-	71.8%

事業所名	菅沢デイサービスセンター（認知症型）												利用定員	10名/日
事業種別	（介護予防）認知症対応型通所介護												目標値	稼働率50%
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営業日数	25	27	27	26	27	26	26	26	26	24	24	27	311日	-
延利用者数（人）	43	63	57	51	54	20	45	45	29	44	41	41	533人	44.4人
1日平均利用（人）	1.7	2.3	2.1	2.0	2.0	0.8	1.7	1.7	1.1	1.8	1.7	1.5	-	1.7人
稼働率（%）	17.2	23.3	21.1	19.6	20.0	7.7	17.3	17.3	11.2	18.3	17.1	15.2	-	17.1%
平均要介護度(介護予防除く)	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	2.0	2.0	2.0	2.0	2.3	2.0	2.0	-	1.9
前年度の延利用者数	86	107	101	91	77	84	78	79	62	42	42	51	900人	75.0人
前年度の稼働率	33.1	41.2	38.8	35.0	28.5	32.3	30.0	30.4	23.8	17.5	17.5	19.6	-	29.1%

② 機能訓練

選択レクリエーションを行い、介護予防・日常生活支援総合事業においては、機能訓練指導員が個別及び集団の機能訓練を実施した。

③ 健康管理

視診、血圧・体温測定（午前・午後2回）、体重測定、服薬の管理など利用者の健康管理と指導を行った。また、新型コロナウイルスの感染防止のため、手洗い、手指消毒、換気等をまめに行った。

④ 家族との連携

連絡帳及び送迎時の情報交換を通して連携を密にし、信頼関係の形成に努めた。

⑤ 関係機関との連携

居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携を密にし、適切なサービスの提供に努めた。また、自作のパンフレットやお便りの発行のほか、月2回ホームページを更新し空き情報の提供に努めた。

⑥ 栄養管理

利用者の嗜好を大切にしながら、季節の行事食を織り交ぜて満足感の得られる食事の提供に努めた。

- ・季節に合わせたお祝い膳
- ・薪を焚いて作る芋煮会の実施

⑦ 災害訓練

菅沢荘と合同で災害訓練を定期的実施した。

⑧ 主な活動

4月	菅沢茶屋（花見）、誕生会	10月	芋煮会、誕生会、紅葉狩り
5月	ドライブ、誕生会、運動会	11月	誕生会、ショッピング
6月	ショッピング、音楽鑑賞、誕生会	12月	忘年会、誕生会
7月	あじさい見学、誕生会	1月	初詣、誕生会
8月	誕生会、音楽鑑賞	2月	音楽鑑賞、誕生会
9月	文字組み合わせゲーム	3月	ショッピング、誕生会

⑨ 苦情解決

今年度は苦情がなかった。

⑩ 運営推進会議（認知症型）

9月は通常開催し、2月は書面開催とした。

4 山形西部地域包括支援センター

令和4年度は、社会福祉士2名、保健師1名、主任介護支援専門員1名、事務員1名の職員5名体制（職員1名欠員）でスタートした。10月から1月まで社会福祉士1名を、1月から保健師1名を採用し、下半期は配置基準を満たし、職員6名体制で運営することができた。

高齢者世帯や複合的な課題を抱える世帯が増える中、関係機関とのネットワークの構築により権利擁護に努め、個別地域ケア会議を適宜開催しながら相談業務を行った。新規相談件数は、令和3年度を8%上回り490件、月平均40.8件であった。

ネットワーク連絡会等の開催により、高齢者見守りネットワークについて地域住民や関係者間で共有するとともに、地区関係者とこれからの地域づくりについて話し合った。また、住民向け在宅療養の普及啓発のため、在宅医療・介護連携室ポピーと共同でツール開発を行い、各地区サロン等でACP（アドバンス・ケア・プランニング）人生会議の普及に力を入れた。

介護予防ケアマネジメントは、月平均205.3件で令和3年度に比べて大きな増減はなかった。

① 総合相談支援業務

ア 相談関係

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
新規相談件数	80	59	35	37	43	27	43	32	22	38	41	33	490件	40.8件
連絡調整件数	765	728	704	678	724	743	720	669	693	603	595	873	8,495件	707.9件
実態把握件数	25	36	23	23	32	22	29	27	24	32	32	30	335件	27.9件

イ 介護予防の講話等

- 地域のサロン（49回）
- 南山形健康講話（10回）、福祉道場（1回）
- 西山形はつらつ元気教室（2回）、打合わせ（5回）
- 本沢備える研修（2回）、打合わせ（3回）

- 山形市認知症予防教室（3回1クール）2地区合同開催
- 本沢地区介護予防重点事業（3回1クール）2サロン

ウ 地域との連携

- 包括支援センターネットワーク連絡会開催、各地区ネットワーク連絡会（5地区）
- 地域福祉推進会議（1回）、協力員等研修会（8回）、地区関係者研修会等（5回）
- 民生児童委員定例会／丸ごと相談会参加（35回）
- 民生児童委員個別情報交換（4回）
- 地域密着型運営推進会議（10回）
- 西山形介護者サロンいっぶぐ会（10回）
- 本沢元気もりもり応援隊派遣調整（20回）
- 認知症カフェ（市営南山形住宅／9回）
- 百歳体操後方支援（8回）おおそね・村木沢・双葉

エ 広報活動

- センターだよりの発行（4回）
- ツナガル大曾根の発行（2回）

② 権利擁護業務

- 成年後見制度等への対応（1件）
- 高齢者虐待等への対応（15件）
- 困難事例への対応（25件）

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- 居宅介護支援事業所連絡会開催（2回）／幹事会（2回）
- 介護支援専門員等への個別支援（6件）
- 本沢地区福祉施設相談員情報交換会（2回）
- 個別地域ケア会議（10回）
- 自立支援ケア会議（4回）

④ 介護予防ケアマネジメント業務等

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
予防給付者数	108	111	117	111	111	103	106	115	106	109	110	114	1,321件	110.1件
(内)委託者数	32	32	31	32	31	31	30	31	31	31	32	36	380件	31.7件
総合事業対象者数	92	94	86	93	93	93	94	94	102	105	98	98	1,142件	95.2件
(内)委託者数	2	2	3	2	4	3	2	3	7	7	3	8	46件	3.8件
認定調査件数	0	2	6	2	3	5	3	4	5	4	4	7	45件	3.8件
住宅改修件数	0	2	1	1	0	1	0	0	0	1	1	3	10件	0.8件

⑤ 苦情解決

苦情なし

5 居宅介護支援事業所すげさわ

介護支援専門員3名体制で居宅介護支援事業を行い、サービス提供事業所と連携を図り、契約者のニーズに沿った適切なケアプランの作成に努めた。

請求件数については、全体で1,443件であったが、予防委託分を介護カウントに換算（予防1件＝介護0.5件）すると実績件数は1407.5件、月平均は117.3件であった。介護支援専門員1人当たりの担当件数は39.1件で、令和3年度の39.4件とほぼ同数であった。

令和3年度に職員4名から3名の体制とし、今後の職員の配置増を視野に実績件数の維持に努めてきたところであるが、改めて1件1件丁寧にマネジメントすることを基本に新規相談の受け入れを行っていきたい。

① ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所すげさわ											利用定員	117名	
事業種別	居宅介護支援											目標値	実績件数1,260件	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
介護給付（件）	114	120	120	117	119	112	111	113	113	113	110	112	1,374件	114.5件
予防給付（件）	5	5	5	5	6	5	6	5	6	6	6	7	67件	5.6件
総合事業（件）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2件	0.2件
計	119	125	125	122	125	117	117	118	119	119	116	121	1,443件	120.3件
前年度件数	128	119	120	121	118	120	123	128	123	119	114	123	1,456件	121.3件

VI 養護老人ホームあたご荘

安全・安心な生活を送ることができるよう入所者の生活環境を維持するとともに、引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策の徹底に努めたが、12月にクラスターが発生し、入所者・職員ともに感染の拡大が見られた。

入退所に関しては、各市町及び関係機関との連携により、本年度は6名が入所したが、死亡や措置解除等により12名が退所した。令和4年度末の入所者数は79名で入所者の増加には至らなかった。

(1) 入所者の状況

① 入退所状況

事業所名		養護老人ホームあたご荘											入所定員		100名	
事業種別		養護老人ホーム、外部サービス利用型特定施設											目標値		-	
項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
本年度	入所者数	84	83	83	85	83	85	83	82	81	80	80	79	988人	82.3人	
	新規入所	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	1	6人	0.5人	
	退所者数	1	1	0	1	1	0	2	2	1	1	1	1	12人	1.0人	
	入所率(%)	84.0	83.0	83.0	85.0	83.0	85.0	83.0	82.0	81.0	80.0	80.0	79.0	-	82.3%	
要支援・要介護者数		54	54	54	55	54	56	54	54	53	52	53	52	645人	53.8人	
外部サービス契約者数		34	34	36	36	35	35	34	33	33	32	34	33	409人	-	
前年度の入所者数		87	88	87	88	88	88	89	88	86	86	85	85	1,045人	87.1人	
前年度の入所率		87.0	88.0	87.0	88.0	88.0	88.0	89.0	88.0	86.0	86.0	85.0	85.0	-	87.1%	

ア 入所者の前の状況

事由	男性	女性	計
他施設・病院	1	1	2人
自宅	1	3	4人
計	2	4	6人

イ 退所者の状況

事由	男性	女性	計
他施設入所等	1	2	3人
死亡	8	1	9人
計	9	3	12人

② 在所期間

(令和5年3月31日現在)

性別/期間	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～年	計	平均期間
男	2	12	12	2	0	0	28人	4年11か月
女	4	21	13	11	1	1	51人	6年5か月
計	6	33	25	13	1	1	79人	5年11か月

※最長在籍21年10か月

③ 年齢構成

(令和5年3月31日現在)

性別/年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢
男	2	10	8	3	4	1	0	28人	77歳
女	1	8	11	13	6	9	3	51人	82歳
計	3	18	19	16	10	10	3	79人	80歳

※最年長者 100歳

④ 措置者の人数枠と入所者数 (令和5年3月31日現在)

市・町 (枠)	男性	女性	計	市・町 (枠)	男性	女性	計
山形市(86)	26	48	74人	山辺町(4)	0	1	1人
天童市(3)	2	0	2人	中山町(3)	0	1	1人
東根市(2)	0	1	1人	河北町(1)	0	0	0人
寒河江市(1)	0	0	0人	計(100)	28	51	79人

⑤ 要支援・要介護者及び外部サービス利用者の状況 (令和5年3月31日現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	9	9	16	10	5	3	0	52人
外部サービス契約者	4	4	9	9	5	2	0	33人
訪問介護	2	2	7	9	4	2	0	26人
通所介護	2	1	1	3	2	0	0	9人
訪問入浴	0	1	2	1	2	2	0	8人
福祉用具貸与	0	2	6	9	4	2	0	23人
訪問リハビリ	0	1	0	0	0	1	0	2人

⑥ 老人一時入所者の利用状況 (ショートステイ)

経済的状況	入所実人員	入所延日数	平均利用日数	うち措置入所した人数 (令和4年度中)
生活保護世帯	1人	91日	91日	0人
その他の世帯	7人	861日	123日	3人
計	8人	952日	-	3人

※令和5年3月31日現在一時入所者1人 (その他の世帯)

⑦ 無年金者 6人

⑧ 障がい者手帳所持者 28人

ア 身体障がい 11人 イ 精神障がい 10人 ウ 療育手帳 (知的障がい) 6人

⑨ 各種疾患に伴う主な定期・不定期受診者 (令和5年3月31日現在)

疾患名 (精神)	人数	疾患名 (内科)	人数	疾患名 (その他)	人数
認知症	22人	高血圧症	51人	脳血管疾患	21人
統合失調症	16人	心臓疾患	24人	白内障	17人
躁うつ病	2人	便秘症	26人	骨粗鬆症	8人
睡眠障害	20人	悪性新生物	13人	皮膚疾患	14人
てんかん	2人	高脂血症	17人	前立腺疾患	7人
		糖尿病	10人	腰痛・腰椎症	8人
		気管支喘息	5人		

⑩ 入院状況

	精神科	内科	外科	循環器科	その他	計	平均入院日数
人数	9	9	1	2	9	30人	88日

※令和5年3月31日現在の入院者7人

⑪ 面会状況 0人 ※感染防止を考慮し、面会を中止とした。

(2) 援助活動

① 主な行事等

4月	合同お茶会（中止）	10月	芋煮会 県芸能祭（中止） バス旅行（中止）
5月	端午の節句輪投げ大会 バス旅行（中止）	11月	石行寺社中お茶会（中止）
6月	県老協通信輪投げ大会 さくらんぼ狩り	12月	クリスマスのつどい（中止） 年末行事（中止）
7月	七夕飾り 夏まつり納涼週間	1月	新春企画 新年行事（中止） だんご木刺し
8月	教養人生講話会	2月	節分のつどい
9月	敬老祝賀会	3月	ひな祭りのつどい 教養人生講和会

※買い物ツアー（4～11月）車窓ツアー（7月、10月）

② クラブ活動等

クラブ名	きれいにし隊	映 写 会	大人の塗り絵	買い物ツアー	華道クラブ	合 計
回数	40回	33回	9回	23回	1回	106回
人数	231人	361人	137人	170人	22人	921人

※入所者の自立支援のため「百歳体操」、「荘内ウォーキング」、「夕方のラジオ体操」を毎日実施した。

(3) 食 事

新型コロナウイルスの感染防止対策を講じながら、季節が感じられ「やまがた」の特徴を生かした変化のある献立にするとともに、入所者の高齢化に伴う嚥下機能の低下に対応した食事を提供した。

- ① 選択食（週2回実施）
- ② お祝い膳（新年祝賀会、敬老祝賀会）
- ③ 季節献立（ぼたもち、寿司、芋煮、クリスマスメニュー）
- ④ 季節行事の献立（甘酒、お汁粉、恵方巻ロール）
- ⑤ 食事委員会の開催（献立、新メニュー、食席等の検討）
- ⑥ アンケートの実施（満足度の把握、意見・要望の聴取）
- ⑦ 食事形態

主 食		副 食		
ごはん	全 粥	普 通	刻 み	極刻み
42人	37人	39人	19人	21人

※アレルギー等の対応食42人、減塩食3人、糖尿食5人

(4) 健康及び衛生管理

- ① 往診（医師の出張診療）
内科（月2回） 精神科（月2回） 皮膚科（月1回） 整形外科（月1回）
- ② 訪問歯科診療（月2回） 要介護認定該当者
- ③ 健康診断（年2回） 5月、12月（血液、尿検査）

- ④ インフルエンザ予防接種（11月）、肺炎球菌予防接種（2月）、新型コロナウイルスワクチン接種（随時）
 - ⑤ 機能訓練（毎朝の百歳体操の実施）
 - ⑥ 口腔ケア（介助を要する入所者へ実施）
 - ⑦ 体重測定（毎月1回）及び血圧測定（毎月2回）
 - ⑧ 感染症対策委員会（嘔吐物処理研修、感染症予防対策）
- (5) 災害及び事故防止対策
- ① 防災訓練
 - ・土砂災害想定 of 避難訓練（避難確保計画による避難経路確認） 6月21日
 - ・火災想定 of 避難訓練（消火訓練） 9月27日
 - ・夜間想定 of 避難訓練（非常連絡網による伝達訓練） 11月15日
 - ・地震想定 of 避難訓練（避難及び通報訓練） 3月9日
 - ② 毎月の安全点検（居室・廊下等）
 - ③ 防災委員会（訓練内容の検討・実施、課題の改善）
 - ④ リスクマネジメント委員会（毎月開催、事故防止対策の検討・周知）
- (6) 職員研修
- 職員のスキルアップ及び入所者へのサービス向上を図るため、職員内研修を実施した。
- ・年度内の事業について（1回）
 - ・各委員会の計画（1回）
 - ・感染症対策実技研修（1回）
 - ・新型コロナウイルス（ゾーニング）研修（1回）
 - ・AED研修（1回）
 - ・メンタルヘルス研修（1回）
 - ・ハラスメントについて（1回）
 - ・防災について（1回）
 - ・事故防止について（1回）
 - ・特定施設について（1回）
 - ・身体拘束について（2回）
 - ・外部研修報告会（1回）
 - ・入所者アンケート集計（1回）
 - ・荘長と語る会まとめ報告（1回）
 - ・個別ケース検討（20回）
- (7) 荘長と語る会（荘内の通りごとに5回実施）
- (8) アンケートの実施（施設の生活等及び食事について 各1回実施）
- (9) あたご荘親睦会（6回）入所者へ年間の行事説明、意見交換
- (10) 介護等体験受け入れ（8名）

Ⅶ ヘルパーステーションあたご

各種疾患や障がいの程度により、要支援・要介護の認定を受けたあたご荘入所者のうち、利用契約を締結した方を対象に、新型コロナウイルスの感染防止対策に留意しながら、下記のとおり身体介護サービスを提供した。

年間利用者数は、要支援者を含め356人で目標の420人を達成することができなかった。その要因としては、入院者が多く長期間の入院となる利用者が多かったことに加えて、あたご荘退所者12名のうち8名が、ヘルパーステーションあたごの利用者だったことが挙げられる。

また、適切なサービスの提供や感染防止対策のため、あたご荘職員と合同で研修を行い、職員のスキルアップを図った。

① サービスの提供状況

ア 要介護者

事業所名	ヘルパーステーションあたご												利用定員		40名	
事業種別	訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業（訪問型サービス）												目標値	年間利用者数420人		
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均		
要介護認定者	33	33	34	34	33	34	33	34	34	36	36	34	408人	34.0人		
訪問介護サービス利用者	27	26	26	26	25	25	26	26	24	22	22	22	297人	24.8人		
排泄介助	17	16	16	16	15	15	16	15	15	14	15	17	187人	15.6人		
入浴介助	23	23	23	23	22	22	22	21	24	22	17	17	259人	21.6人		
口腔ケア	5	5	5	5	5	5	5	6	4	3	5	5	58人	4.8人		
食事介助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人	0.0人		
計	45	44	44	44	42	42	43	42	43	39	37	39	504人	42.0人		
前年度実績	37	38	36	36	37	36	37	41	40	43	43	41	465人	38.8人		

イ 要支援者

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
要支援認定者	21	21	20	21	21	21	21	20	18	16	17	18	235人	19.6人
訪問介護サービス利用者	5	5	6	6	6	5	4	4	5	5	4	4	59人	4.9人
入浴介助	5	4	6	6	6	5	4	4	5	5	4	4	58人	4.8人
前年度実績	7	6	6	5	5	6	5	6	6	7	7	6	72人	6.0人

Ⅷ たきやま地域包括支援センター

令和4年度は、コロナ禍であっても地域や各関係機関との情報共有や連携を意識しながら、下記のとおり業務を遂行することができた。特に、誰もが住み慣れた場所で安心して生活できる地域作りとして、地区社会福祉協議会と介護保険事業所との連携・協力により、子ども・高齢者見守り連絡所を開所し、滝山地区の全介護保険事業所等27か所に設置することができた。

また、令和4年度は周知啓発に力を入れ、当センターの活動や事業、権利擁護等の啓発を行うため、広報誌のほかSNSの活用として7月から公式LINEの配信を開始し幅広く周知を行った。

相談実績の件数については、令和3年度とほぼ同じであったが、介護予防支援の実績件数については、居宅介護支援事業所への委託を抑え、センターでの担当件数を増やし経営の維持に努めた。

① 総合相談支援業務

ア 相談実績

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
新規相談件数	17	28	35	29	43	22	27	24	33	25	24	31	338件	28.2件
連絡調整件数	880	791	925	971	949	850	933	867	811	819	775	929	10,500件	875.0件
実態把握件数	18	22	21	16	27	21	19	16	14	26	16	19	235件	19.6件

イ 地域との連携

- 地域包括支援センターネットワーク連絡会（2回） ※うち書面開催1回
- 民生委員定例会（12回）
- 福祉協力員三役会（13回）、地区代表者会議（3回）
- 福祉協力員大会・研修会（2回） ※新任全体研修会は中止
- 滝山地区福祉推進会議（1回）
- 滝山地区社会福祉協議会幹事会（3回）
- 地区社協介護予防のつどい（8回）
- 三者懇談会（7回）
- 青少年健全育成協議会（1回）
- 我が事、まるごと地域づくり（3回）
- いきいきサロンや介護予防教室での相談対応（29回）
- 絆づくりの会（2回）

ウ 広報活動

- 包括支援センターだより「あんしん定期便」の発行（6回）
※全戸配布1回、回覧5回
- 公式LINEの配信（16回）

② 権利擁護業務

- 権利擁護に関する周知啓発（サロン、介護予防教室、研修会等）
- 成年後見制度申立支援（1件）
- 高齢者虐待への対応（3件）・困難ケースへの対応（5件）

- 認知症カフェ「ほっこりカフェ・ぼんぼんカフェ」（6回）
 - 認知症サポーター養成講座の開催（0回）
 - 認知症サポーター懇談会（1件）
- ③ 包括的・継続的ケアマネジメント業務
- 滝山地区居宅介護支援事業所連絡会（オンライン会議12回、事例検討会2回、オンライン研修会1回）
 - 滝山地区小規模多機能型居宅介護支援事業所連絡会（オンライン会議4回、事例検討会1回、オンライン研修会1回）
 - 介護保険サービス事業所連絡会（1回）
 - 訪問看護連絡会（3回）
 - 薬剤師連絡会（1回）
 - 自立支援型地域ケア会議（3回）
 - 個別地域ケア会議（2回）
 - 介護支援専門員への個別支援（4回）
- ④ 介護予防ケアマネジメント業務

ア 実績件数

事業所名	たきやま地域包括支援センター												利用定員	-名	
事業種別	介護予防支援												利用定員	-	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	
予防給付者数	107	110	109	105	104	103	109	107	108	108	104	108	1,282件	106.8件	
(内) 委託者数	49	52	50	49	47	42	43	45	48	50	48	47	570件	47.5件	
総合事業対象者数	105	108	102	108	106	102	110	111	111	106	102	109	1,280件	106.7件	
(内) 委託者数	18	15	13	12	13	13	15	16	16	14	13	17	175件	14.6件	
認定調査件数	0	0	1	4	0	1	4	5	6	1	2	4	28件	2.3件	
住宅改修件数	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	5件	0.4件	

イ 介護予防事業

- 介護予防教室（フレイル予防）5回
 - 介護予防に関する講話・周知啓発（41回）
 - 通いの場・サロン等の継続支援（コロナ感染予防・体力測定 3回）
 - いきいきサロンや介護予防教室での相談対応（29回）
- ⑤ 関係機関等との連携
- 生活支援コーディネーター（通いの場の立ち上げ、地域ニーズの把握、ICTの活用等）
 - 認知症初期集中支援チーム（認知症対応、認知症予防教室開催に向けた連携）
 - 認知症地域支援推進員（認知症カフェ）
 - 在宅医療・介護連携室ポピー（医療連携の啓発）
 - 多機関協働支援センターとの連携（複雑・多様化した家族問題の相談）、連絡会（6回）
研修参加（1回）
 - グループホーム運営推進会議（通常開催1回、書面開催3回）
 - 小規模多機能型居宅介護、地域密着型介護老人福祉施設運営推進会議（通常開催4回、

書面開催16回)

- 東北芸術工科大学学生による地域高齢者と若者の交流会の立ち上げ支援等（2回）
- 看護学校からの実習生の受け入れ（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）

IX 居宅介護支援事業所たきやま

令和4年4月から職員2名体制で事業を実施し、利用者や家族との信頼関係の構築に努め、自分らしく自立した生活を継続できるよう支援に努めた。また、地域包括支援センターや関係機関との連携を意識し、圏域の居宅介護支援事業所との連絡会や研修会に参加し、質の高いケアマネジメントの提供につなげた。

事業所の経営維持に向け、契約件数の開拓・確保に努めたが、請求件数は793件と目標値には届かなかった。入院など家族の介護負担により施設入所等で在宅生活を中断される方が増えており、請求につながらなかったことが要因に挙げられる。引き続き、家族の支援も考慮しながら、実績件数の増加・確保に努める。

① ケアプラン作成

事業所名	居宅介護支援事業所たきやま												利用定員		-名	
事業種別	居宅介護支援												目標値		実績件数900件	
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均		
介護給付(件)	49	50	56	62	58	60	62	55	64	65	60	59	700件	58.3件		
予防給付(件)	8	8	8	8	9	7	9	7	9	8	6	6	93件	7.8件		
総合事業(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0.0件		
計	57	58	64	70	67	67	71	62	73	73	66	65	793件	66.1件		
前年度件数	28	28	27	27	26	31	26	23	24	27	25	25	317件	26.4件		

② 更新調査

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
調査件数	0	5	6	8	5	3	7	6	3	6	10	13	72件	6.0件

X 銅町デイサービスセンター

令和4年度の稼働率は51.8%で目標とした88%を下回り、延利用者数は令和3年度に比べ1,317人減となった。県内における新型コロナウイルスの感染拡大により引き続き利用を控える方が見られ、8月にはクラスターが発生し、複数名の利用者・職員に感染が確認され、保健所の指導により5日間の営業停止の事態となった。

このような状況においても新規利用者の確保を進めたが、体調を崩して入院される方やフレイルの進行により通所が難しく施設入所された方など利用休止・停止の方も多く見られ、利用者数の増加を図ることができなかった。

① 利用状況

事業所名	銅町デイサービスセンター												利用定員	30名/日
事業種別	通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業（通所型サービス）												目標値	稼働率88%
項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
営業日数	25	27	26	26	22	26	26	26	26	22	24	27	303日	-
延利用者数（人）	421	424	422	429	350	426	420	393	367	307	351	399	4,709人	392.4人
1日平均利用（人）	16.8	15.7	16.2	16.5	15.9	16.4	16.2	15.1	14.1	14.0	14.6	14.8	-	15.5人
稼働率（%）	56.1	52.3	54.1	55.0	53.0	54.6	53.8	50.4	47.1	46.5	48.8	49.3	-	51.8%
平均要介護度	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.6	1.6	1.6	1.7	1.7	1.8	1.8	-	1.7
前年度の延利用者数	540	557	531	534	539	511	495	497	484	447	417	474	6,026人	502.2人
前年度の稼働率	69.2	71.4	68.1	68.5	66.5	65.5	63.5	63.7	62.1	62.1	57.9	58.5	-	64.8%

② 利用者確保対策

近隣の居宅介護支援事業所や地域包括支援センターに働きかけ、新規利用者の確保を図るとともに、隣接する高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）の入居者の利用開拓に努めた。

③ ケアプランに添ったサービスの提供

ケアプランに基づき通所介護計画書等を作成し、利用目的を達成できるよう努めた。

④ 健康管理

ア 視診・血圧・体温の測定、服薬の管理等による健康管理と健康指導を行った。

イ レジオネラ属菌検査（年2回）や残留塩素濃度の測定を行い、浴槽水の衛生管理に努めた。

ウ マスクの着用、施設設備の消毒の徹底により、引き続き新型コロナウイルスの感染防止に努めた。

⑤ 家族との連携

連絡帳の活用や送迎時の情報交換等で連携を図り、信頼関係の維持・形成に努めた。

⑥ 関係機関との連携

居宅介護支援事業所・地域包括支援センターと連携し、適切なサービスを提供した。

⑦ 栄養管理

毎月給食委員会を開催し、家庭の味を大切に食べる楽しみと季節が感じられる食事の提供を行った。

⑧ 主な活動

ア 誕生会（毎月第4週を基本に1週間）

- イ 季節の行事（節分、雛祭り、観桜会ドライブ、夏祭り、紅葉ドライブ、クリスマス等）
- ウ 全体レクリエーション（頭の体操、すごろくゲーム等）
- エ 個人レクリエーション（将棋、トランプ、オセロ、ちぎり絵、書道、創作活動等）

⑨ 利用者家族及び地域への広報

センターだより「あかしや」を毎月、「せせらぎ」を年1回発行した。

⑩ 地域交流

令和4年度もコロナ禍のため、地域のボランティア、慰問団及び介護体験学習の受け入れを中止した。なお、地域交流室は発熱や体調不良を訴える利用者の療養に使用した。

⑪ 災害訓練

- ア 避難訓練、消火訓練及び通報訓練の実施（各1回）、消防用設備等の点検（年2回）
- イ 緊急時対応の体制確立

⑫ 職員研修

- ア 外部研修 0件
- イ 内部研修 1件 9名

⑬ 苦情解決の取り組み

- ア 「ご意見箱」の設置
- イ センターだよりによる苦情受付体制の周知
- ウ 利用満足度調査アンケートの実施（年2回）
- エ 苦情 0件

⑭ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（山形市委託事業）

高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）に生活援助員を派遣して、入居者の安否確認、生活相談を実施し、関係機関と連携しながら、入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営銅町住宅 118世帯のうち、シルバーハウジング36世帯
- ・市営薬師町住宅 60世帯のうち、シルバーハウジング18世帯

ア 安否確認

平日は毎日実施を基本に、入居者と相談して確認の曜日を決め、電話又は訪問等で安否を確認し、併せて健康状態の把握を行った。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	20	19	22	20	22	20	20	21	22	19	19	22	246日
電話	209	216	217	199	225	175	186	197	227	203	176	205	2,435回
訪問	7	11	14	14	16	2	1	2	2	2	2	1	74回
計	216	227	231	213	241	177	187	199	229	205	178	206	2,509回

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	20	19	22	20	22	20	20	21	22	19	19	22	246日
電話	56	68	55	58	79	62	64	76	66	79	61	62	786回
訪問	4	7	4	4	7	5	4	5	4	4	6	5	59回
計	60	75	59	62	86	67	68	81	70	83	67	67	845回

イ 生活相談

毎月予約制による相談日を設け、各市営住宅の相談室や自室で入居者からの生活相談に応じた。生活援助員では対応困難な相談内容については、関係機関と協議の上対応した。

〈銅町住宅〉

内容	相談の形態				計
	電 話	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福 社	0	1	2	0	3件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	2	0	2件
計	0	1	4	0	5件

〈薬師町住宅〉

内容	相談の形態				計
	電 話	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	0	0	0件
福 社	0	0	0	0	0件
家 族	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	1	0	1件
計	0	0	1	0	1件

ウ 緊急時対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、インターホン又は訪問により速やかに状況を把握し、迅速適正に対応した。夜間・休日の通報及び初期対応を警備会社に委託し、連絡を受けた場合は職員が迅速に対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2件
誤報(時間内)	1	2	0	1	1	2	0	0	0	3	2	1	13件
誤報(時間外)	0	2	1	0	3	2	4	0	0	0	1	2	15件
計	2	4	2	1	4	4	4	0	0	3	3	3	30件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1件
誤報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3件
誤報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1件
計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	5件

エ 一時的家事援助

〈銅町住宅〉

蛍光灯等の交換、家電の組み立て、新型コロナウイルスワクチン接種手続きの補助 他

〈薬師町住宅〉

蛍光灯の交換、調査書類等の記入支援 他

オ 関係機関との連携

毎月、市長寿支援課には入退院等の状況を報告し、生活状況や介護状況の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	3	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	7件
サービス業者	0	2	7	0	2	4	4	3	2	3	1	1	29件
地域関係者	1	0	1	0	0	1	1	0	1	1	0	0	6件
長寿支援課	2	0	2	2	0	4	4	2	2	3	2	4	27件
住宅管理センター	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1件
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	6	2	11	2	3	9	9	6	6	7	3	6	70件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
サービス業者	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2件
地域関係者	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3件
長寿支援課	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	5件
住宅管理センター	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2件
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	0	2	0	2	0	0	2	2	1	2	0	1	12件